

牛久市子ども読書活動推進計画(第2次)



平成30年 3月

牛久市教育委員会

はじめに

牛久市では平成25年3月に、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、すべての子どもが読書活動を幼少期から大人になるまで生涯にわたりに行うことで、より豊かな人生を送れるようにするために「牛久市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

今回、さらに充実した子どもたちの読書活動を目指して「牛久市子ども読書活動推進計画（第2次）」を策定いたしました。

これまで、読み聞かせボランティアの協力を得て進めてきた様々なおはなし会、赤ちゃんに本との出会いを提供する「ブックスタート」、そしてNPO法人「リーブルの会」との協働による図書館運営を通じた子どもの読書活動の推進など、様々な活動を充実させてきました。

また、小中高等学校においては、国が2030年の世界に生きる子供たちに必要な資質能力を育成するために平成29年に新しい学習指導要領が公示されました。

その中で、言語活動や国語教育をより一層充実させるために学校図書館の計画的な利用を進めるとともに、地域の図書館などの施設も積極的に活用し、資料活用や情報の収集などの学習活動を充実させることを掲げています。

また「いばらき教育プラン」(H28～H32)の中でも子どもたちの自主性・自立性をはぐくむために、生涯にわたって学び続けることができる環境づくりを通じた、県民すべての読書活動の推進を掲げています。

こうしたことを受け、市内全校に配置しております専門資格を持った学校司書の活動が、読み聞かせや読書活動の支援にとどまらず、学校図書館資源共有ネットワークの推進事業を活用した、児童生徒の読書活動の活性化にも大きな役割を担っています。

さらに新しい事業として、中央図書館では「読書手帳」を作成し、より一層の図書館利用を進めるとともに、うちどく（家読）の事業をすべての小中学校に広げ、家族を巻き込んだ読書活動の推進も図っています。

本計画はこれらの活動を体系的に取りまとめるとともに、子どもたちの読書活動をさらに推進するための方針を明らかにしたものです。

今後も、地域や子育て支援施設、学校との連携をより一層進めながら、事業の積極的な推進を図ってまいります。

最後に、この計画の策定にあたってアンケートのご協力をいただいた、市内各保育園・幼稚園、小・中学校、高等学校関係者の皆様はじめ、図書館協議会委員ならびにワーキンググループの皆様に心から御礼申し上げます。

平成30年3月

牛久市教育委員会
教育長 染谷 郁夫

もくじ

第1章 計画策定の趣旨

I 計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨	1
2 計画策定の背景	1
3 子どもの読書活動の意義	2
4 子どもの読書活動に関する国、県の動向	2
5 牛久市の読書状況	3

II 計画の概要

1 計画の目的	1 6
2 計画の位置づけ	1 6
3 計画の対象	1 7
4 計画の期間	1 7
5 計画の基本的方針	1 7
6 計画推進のための施策の体系図	1 8

第2章 子どもの読書活動推進のための具体的な取り組み

1 家庭	1 9
2 保育園・幼稚園・認定こども園	2 2
3 小・中学校	2 3
4 高等学校	2 5
5 図書館	2 7
6 読み聞かせボランティア・地域読書活動推進団体	3 2
7 実施施策の数値目標	3 3

第3章 方策の推進体制の整備・充実

1 関係機関の連携・協力	3 4
2 啓発、広報などの推進	3 4
3 推進計画の進行管理・財政上の措置	3 4

【資料編】

資料 1	平成 2 9 年「読書に関するアンケート調査」実施結果・・・・・・・・	3 6
資料 2	平成 2 9 年児童生徒アンケート実施結果・・・・・・・・	3 7
資料 3	平成 2 9 年保護者アンケート実施結果・・・・・・・・	4 7
資料 4	関係機関施設等一覧・・・・・・・・	5 6
資料 5	子どもの読書活動の推進に関する法律・・・・・・・・	5 8
資料 6	策定スケジュール・・・・・・・・	6 0
資料 7	牛久市図書館協議会委員名簿・・・・・・・・	6 1
	牛久市子ども読書活動推進計画（第 2 次）策定ワーキング委員名簿・・・	6 1

第1章 計画策定の趣旨

I 計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

この計画は、市内の子どもの読書活動を推進するため、成長に応じた読書活動を支援し、総合的に子どもの読書環境を整備していこうとするものです。本市においては、平成25年3月策定の「牛久市子ども読書活動推進計画」（以下「第1次計画」という。）を改訂し、「牛久市子ども読書活動推進計画（第2次）」（以下「第2次計画」という。）を策定することといたしました。

2 計画策定の背景

テレビやインターネットなど、情報化の進展にはめざましいものがあり、子どもたちを取り巻く生活環境は大きく変化しています。大量の情報を瞬時に入手でき、様々な情報が氾濫する中で子どもの「読書離れ」が指摘されています。

全国学校図書館協議会が子どもの読書の実態や読書環境を調査する「第62回学校読書調査」によりますと、平成28年5月1か月間の平均読書冊数は、小学生は11.4冊（前年同期：11.2冊）、中学生は4.2冊（前年同期：4.0冊）、高校生は1.4冊（前年同期：1.5冊）となっており、前年度に比べ、小・中学生は微増、高校生は微減している状況となっています。

また、5月1か月間に1冊も本を読まなかった児童・生徒の割合は、小学生は4.0%（前年同期：4.8%）、中学生は15.4%（前年同期：13.4%）、高校生は57.1%（前年同期：51.9%）となっており、前年度調査に比べ小学生は減少、中学生・高校生は増加となっています。このような現状の中で、家庭や地域、学校や図書館が一体となって子どもの読書活動を推進していく必要があります。

3 子どもの読書活動の意義

読書活動は子どもの国語力を向上させ、語彙力を豊富にし、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにするなど、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです。

しかし、近年の様々な情報メディアの発達や子どもたちを取り巻く生活環境の変化などにより、子どもの「読書離れ」が指摘されています。このような現状の中で、子どもたちに幼児期から豊かな読書体験をさせ、子どもが本と出会う機会を増やし、読書を通じて自ら学び、考え、判断する力や他人を思いやる「生きる力」を育成するために、家庭や地域、学校、図書館などが一体となって読書活動を進めていく必要があります。

4 子どもの読書活動に関する国、県の動向

【国の動向】

国では平成 11 年 8 月、子どもの読書活動を支援するため、平成 12 年を「子ども読書年」とする決議がなされました。また平成 12 年 5 月には国立国会図書館の支部図書館として「国際子ども図書館」が開館し、児童書専門図書館として子どもの読書にかかわる多様な活動を支援しています。

平成 13 年 12 月には、子どもの読書活動の推進に関する基本理念などを定めた「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、この法律の第 8 条第 1 項の規定に基づき、平成 14 年 8 月に、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（以下「基本的な計画」という。）を策定し、おおむね 5 年間にわたる施策の基本的方向と具体的な方策を明らかにしています。

その後、平成 20 年 3 月に第二次「基本的な計画」、平成 25 年 5 月に第三次「基本的な計画」が策定されています。

【県の動向】

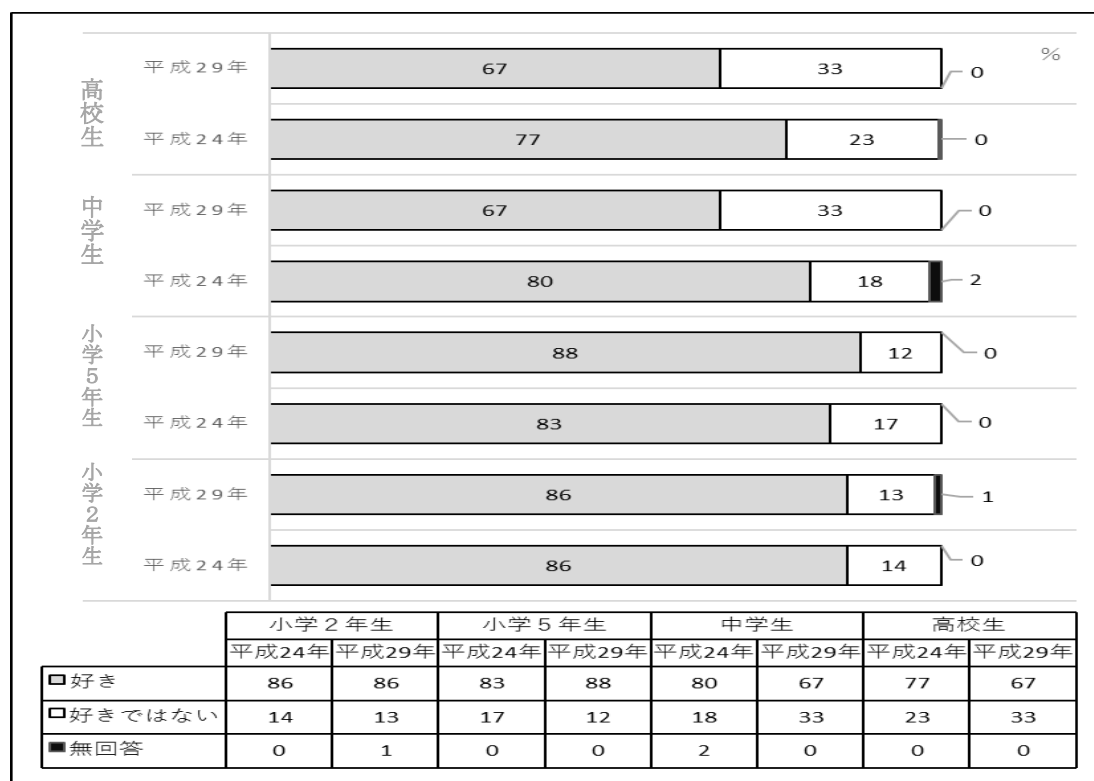
県においては、平成 15 年 8 月に開催された「いばらき子ども読書議会」における、子どもからの読書活動に関する提案を踏まえつつ平成 16 年 3 月に「いばらき子ども読書活動推進計画」（以下「推進計画」という。）を策定し、平成 22 年 1 月には第二次「推進計画」、平成 27 年 3 月には第三次「推進計画」が策定されています。

5 牛久市の読書状況

本市においては、平成 29 年 7 月に市内の子どもたちの読書環境の現状を把握するために「読書に関するアンケート」（3,099 件回収）を実施しました。アンケートは市内保育園・認定こども園 2 歳児と 5 歳児の保護者、市内幼稚園 5 歳児の保護者、市内小学校 2 年生、5 年生の児童及びその保護者、市内中学校 2 年生の生徒及びその保護者、市内高校 2 年生の生徒を対象に行い、第 1 次計画策定時に行ったアンケート（平成 24 年 11 月実施、2,891 件回収）と主な質問を比較しました。

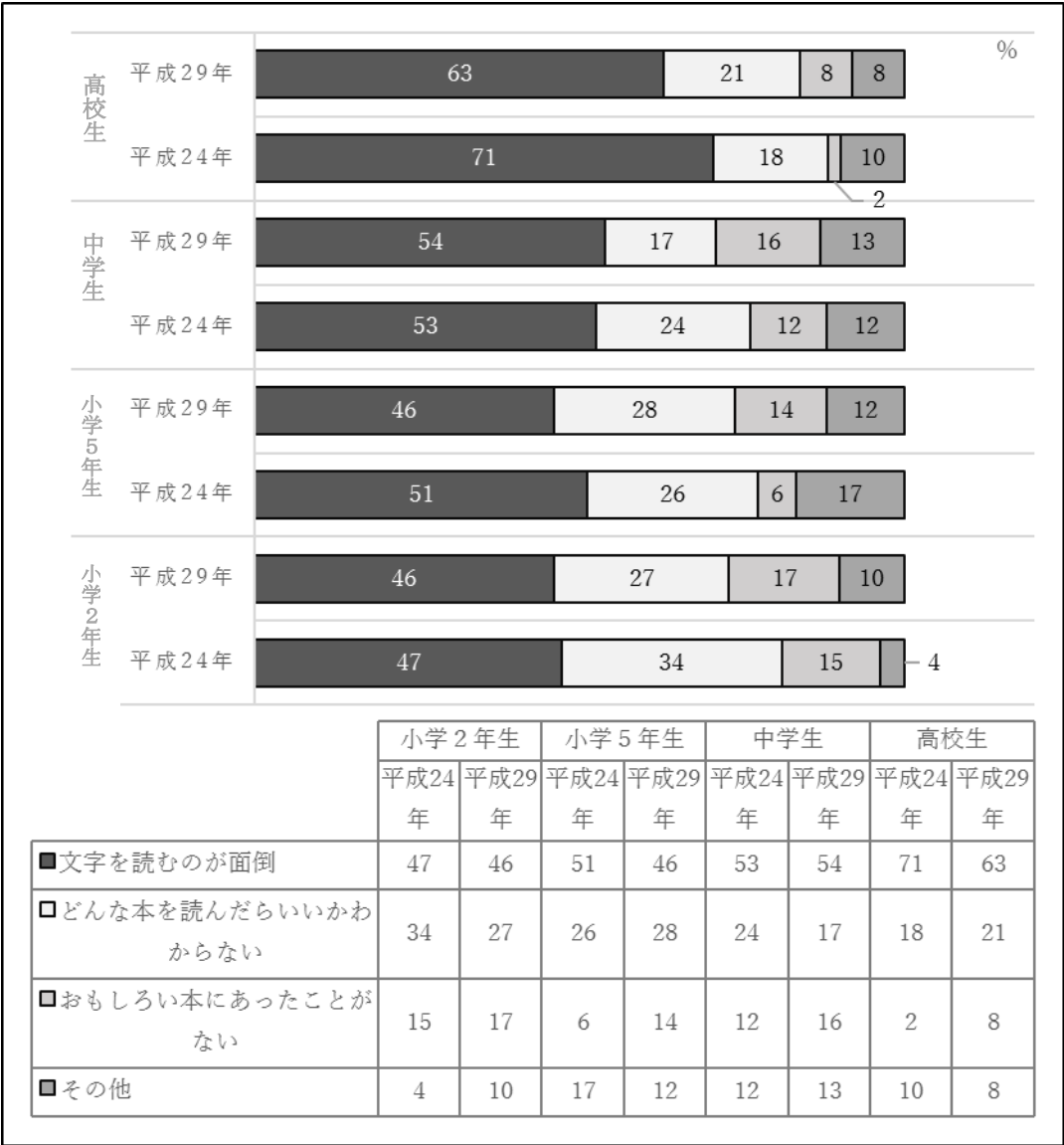
◇児童・生徒に対する質問

1 あなたは、本を読むことが好きですか？



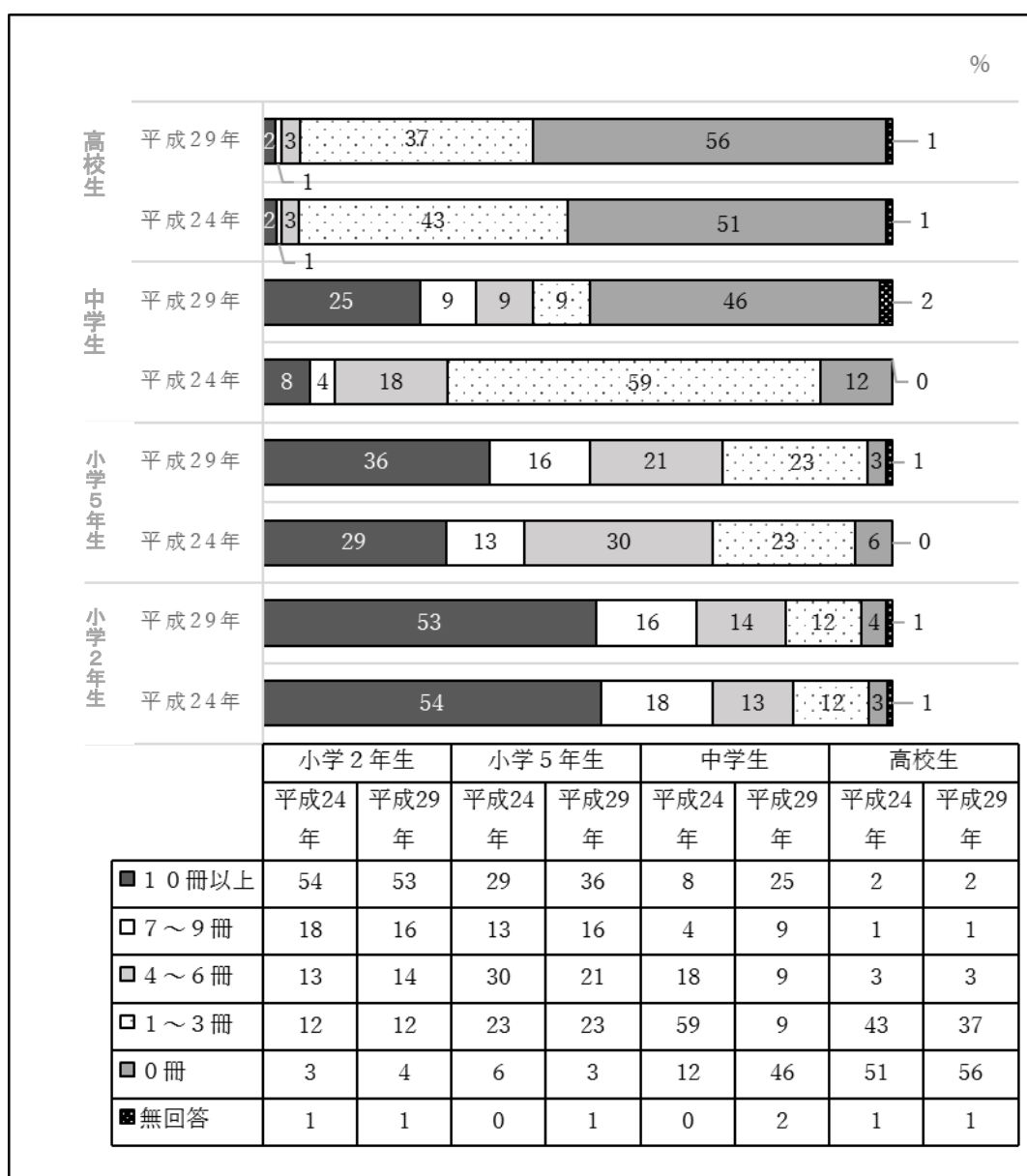
平成 29 年の「本が好き」という小学生の割合は 8 割を超えているのに対し、中学生と高校生は 67% でした。小学 2 年生は、平成 24 年と平成 29 年がそれぞれ 86% と変化はありませんでした。小学 5 年生は、平成 24 年の 83% に対し、平成 29 年は 88% と 5 ポイント増加しました。一方、中学生は 80% から 67% へ 13 ポイント、高校生は 77% から 67% へ 10 ポイントそれぞれ減少しました。無回答者がほぼいないことから、中高生については平成 24 年の調査時よりも、本を読むことが好きではないと回答した生徒の数がそれぞれ 15 ポイント、10 ポイント増加したといえます。

2 「好きではない」と答えた人だけにお聞きします。好きではない理由は何ですか？



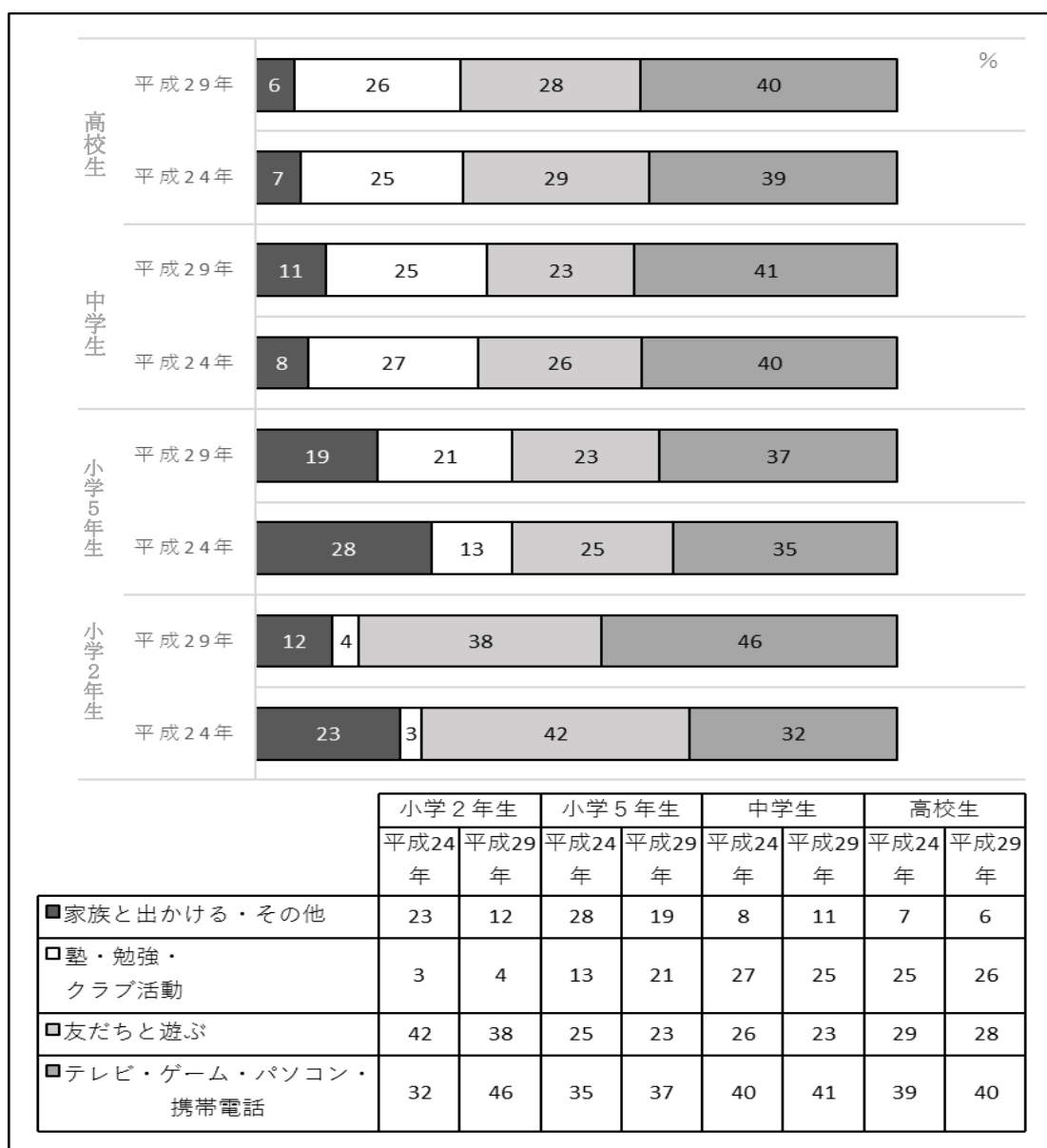
本が好きではない理由として、「文字を読むのが面倒」と答えている児童・生徒は、平成24年と比較し小学2年生と中学生ではあまり変化がありませんが、小学5年生では5ポイント、高校生では8ポイントそれぞれ減少しました。次に多い回答は「どんな本を読んだらいいかわからない」で、小学2年生、小学5年生、中学生、高校生がそれぞれ27%、28%、17%、21%となっており、高校生では前回より3ポイント増加しています。「おもしろい本にあったことがない」という理由が小学5年生では8ポイント、高校生では6ポイントそれぞれ増加しています。その他の理由としては、小学2年生「すらすら読めない」、小学5年生「読むことが好きではない」、中学生と高校生「興味がない」「時間がない」という回答がありました。

3 あなたは、本をこの1ヶ月に何冊読みましたか？（マンガ・雑誌は除く）



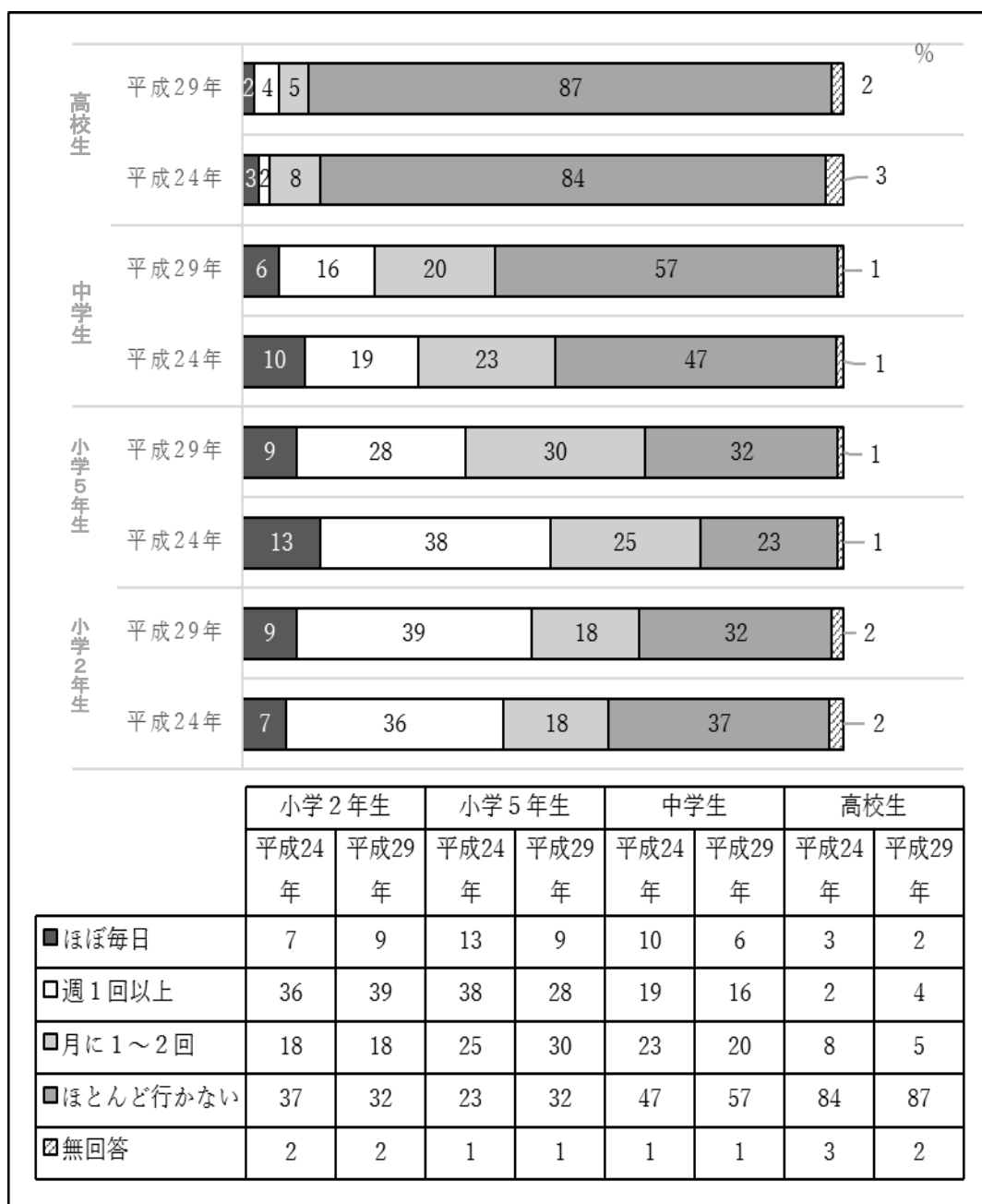
「この1ヶ月」の読書冊数について、小学2年生にはほとんど変化がありませんでした。小学5年生では、10冊以上が36%と平成24年より7ポイント増加し、4～6冊は21%で9ポイント減少しました。中学生については、0冊が、12%から46%へ34ポイント増加した反面、10冊以上も8%から25%に17ポイント増加しています。しかし、1～3冊が59%から9%に減少していることを考慮すると、よく読む生徒と全く読まない生徒の二極化が進んでいると思われます。高校生については、おおむね前回と同じ結果になっています。

4 0冊（読まなかった）と答えた人だけにお聞きします。読書よりしたいことは何ですか？



読書よりしたいことについて、平成29年の小学2年生では「テレビ・ゲーム・パソコン・携帯電話」が14ポイントの増加、「友だちと遊ぶ」が4ポイント減少、「家族と出かける」が11ポイント減少しています。情報メディアの普及が小学校低学年にも及んでいることが感じられます。また、小学5年生では、「家族で出かける」が9ポイント減少し、「塾・勉強・クラブ活動」が8ポイント増加しました。中学生と高校生についてはほぼ変化がありませんでした。どの学年を通して、読書よりしたいことの一番の理由は「テレビ・ゲーム・パソコン・携帯電話」となっています。

5 あなたは休み時間や放課後に、学校図書館へ行きますか？

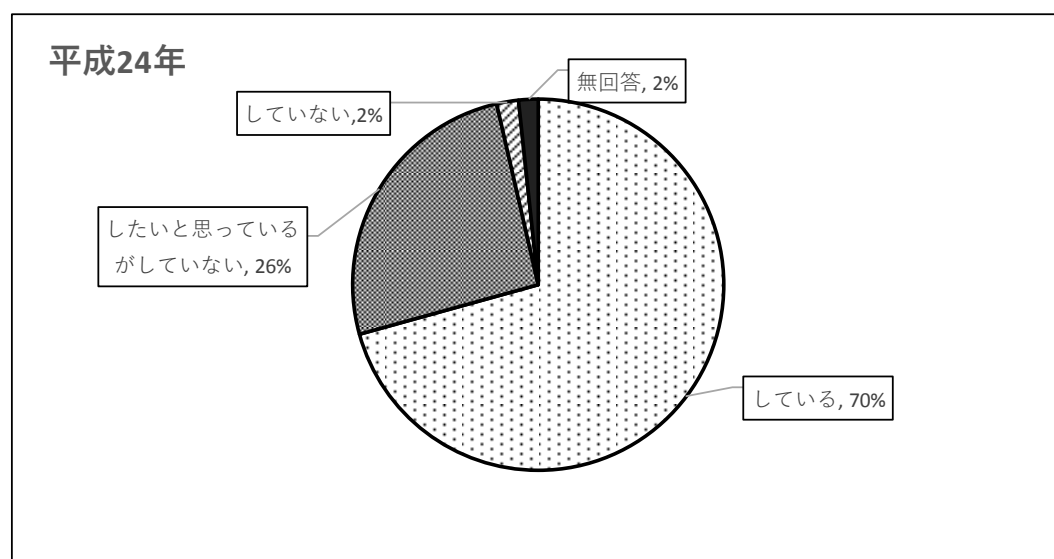
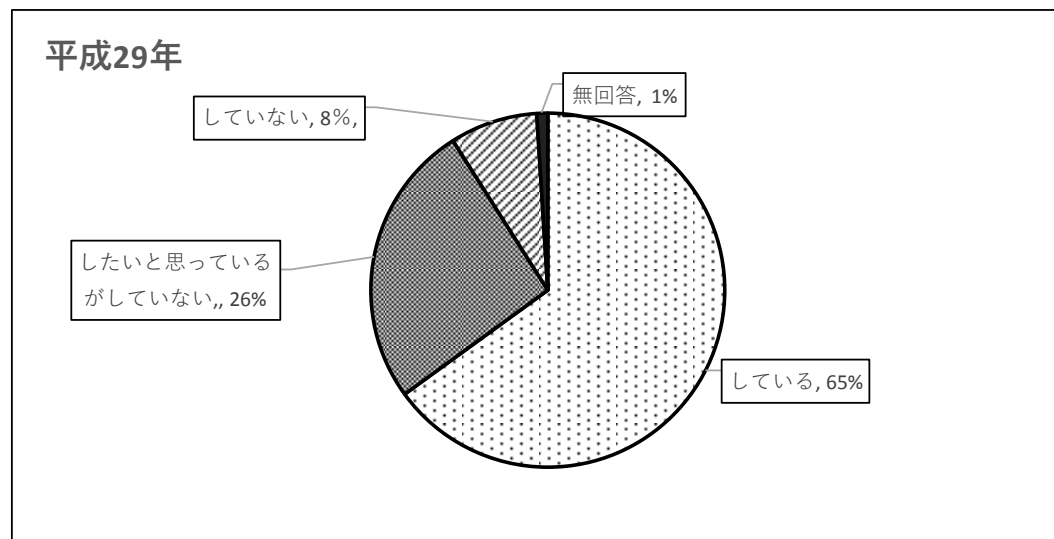


学校図書館の利用についての問いでは、「ほとんど行かない」と答えた児童や生徒が小学5年生では9ポイント、中学生では10ポイントとそれぞれ増加しているのに対し、小学2年生では5ポイント減少しています。小学5年生から学年が上がるにつれて、学校図書館に行かない生徒が増加する傾向は平成24年の調査とほぼ同じとなっています。

◇保護者に対する質問

保育園・幼稚園・認定こども園の保護者に対する質問

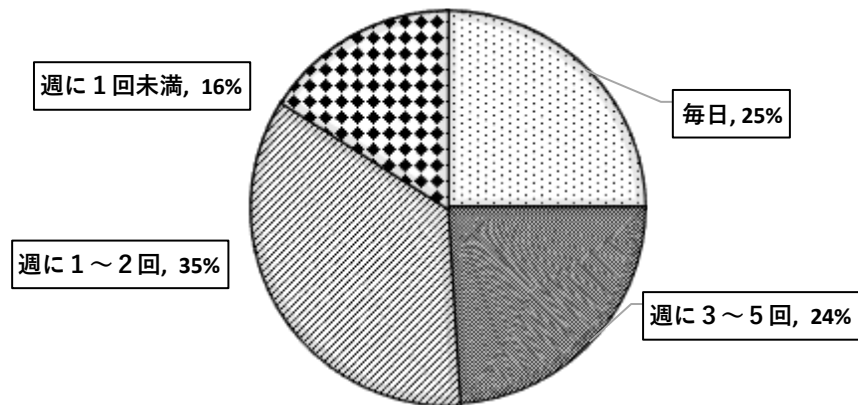
6 ご家庭でお子さんに読み聞かせを行っていますか？（％）



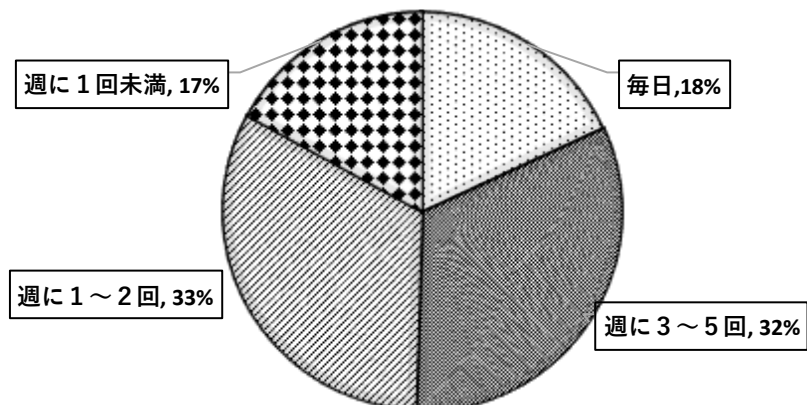
園児のいるご家庭で「読み聞かせを行っている」割合は、平成24年が70%、平成29年が65%で5ポイント減少しています。逆に「行っていない」割合は2%から8%と6ポイント増加しています。

7 ご家庭でどれくらいの頻度で読み聞かせを行っていますか？

平成29年



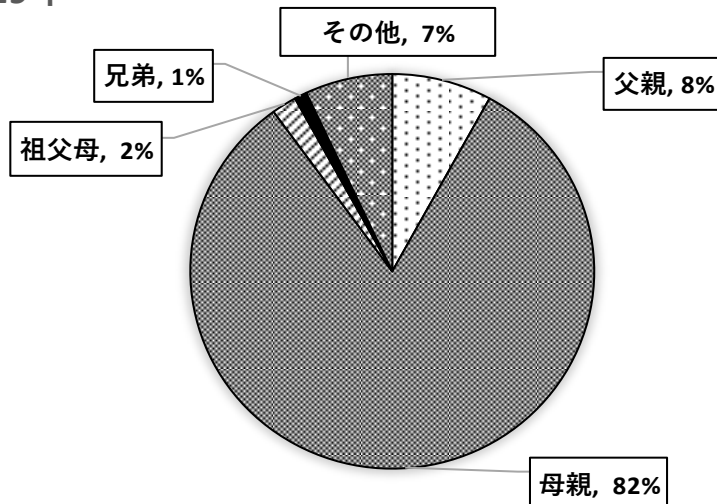
平成24年



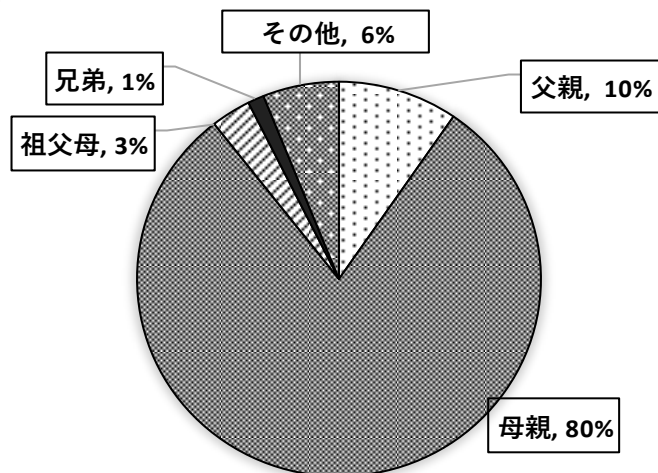
園児のいるご家庭で読み聞かせを行っている頻度については、平成24年と比べて、「毎日」が7ポイント増加し、「週に3～5回」が8ポイント減少しています。各頻度については、それぞれ割合が同じぐらいになっていますが、中でも「週に1～2回」と答えている家庭が最も多くなっています。

8 ご家庭で、だれが一番多く読み聞かせを行っていますか？

平成29年

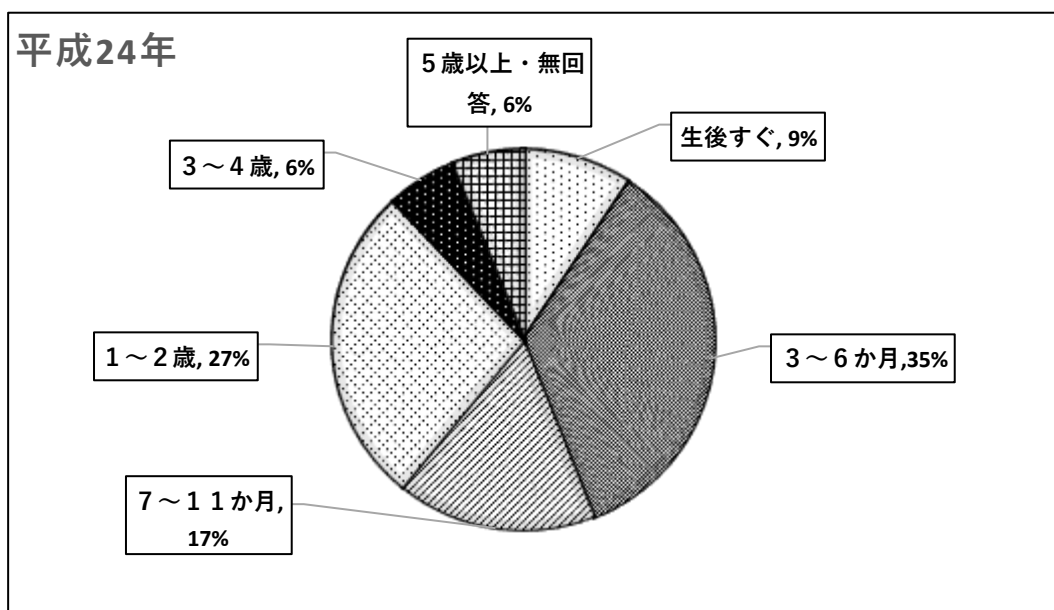
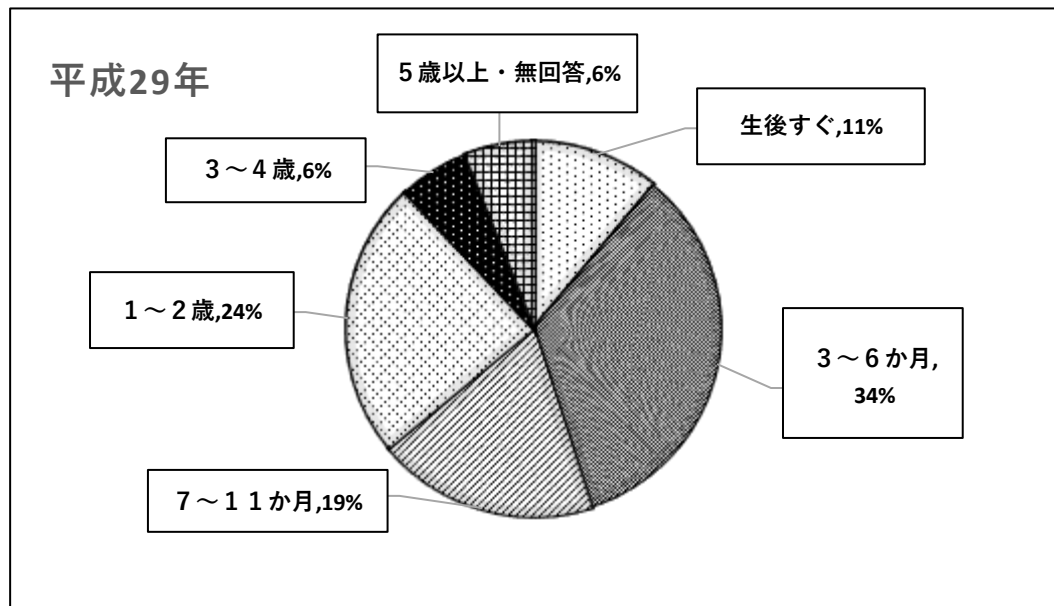


平成24年



園児のいる家庭において、読み聞かせを一番多く行っているのは「母親」で平成24年は80%、平成29年は82%で、それぞれ8割を超えています。次いで「父親」で、平成24年は10%、平成29年は8%となっています。全体のおおよその割合は前回と大きな変化はありません。その他として、「おじ」「おば」などとなっています。

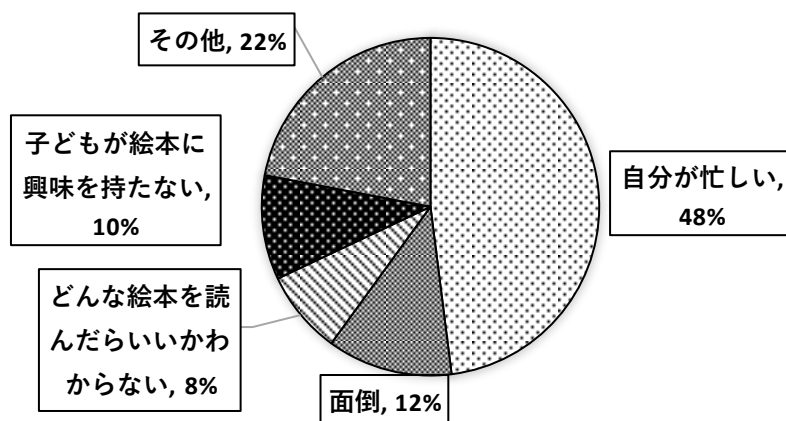
9 ご家庭でいつ頃から読み聞かせを始めましたか？



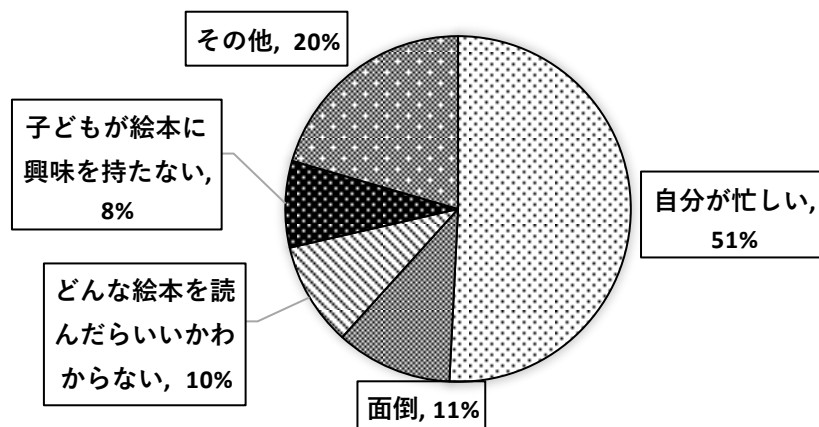
読み聞かせを始めた時期については、平成24年と平成29年では割合に大きな変化はありません。「生後すぐ」と答えた人は平成24年が9%、平成29年が11%となっており、約1割の人が生後すぐに読み聞かせを始めています。また、「3～6 か月」と答えた人の割合が両年共に一番多く、いずれもおよそ3割を占めています。1年未満で読み聞かせを始めている人が平成24年では61%、平成29年では64%と6割を超えています。

10 ご家庭で、読み聞かせをしていない理由は何ですか？

平成29年



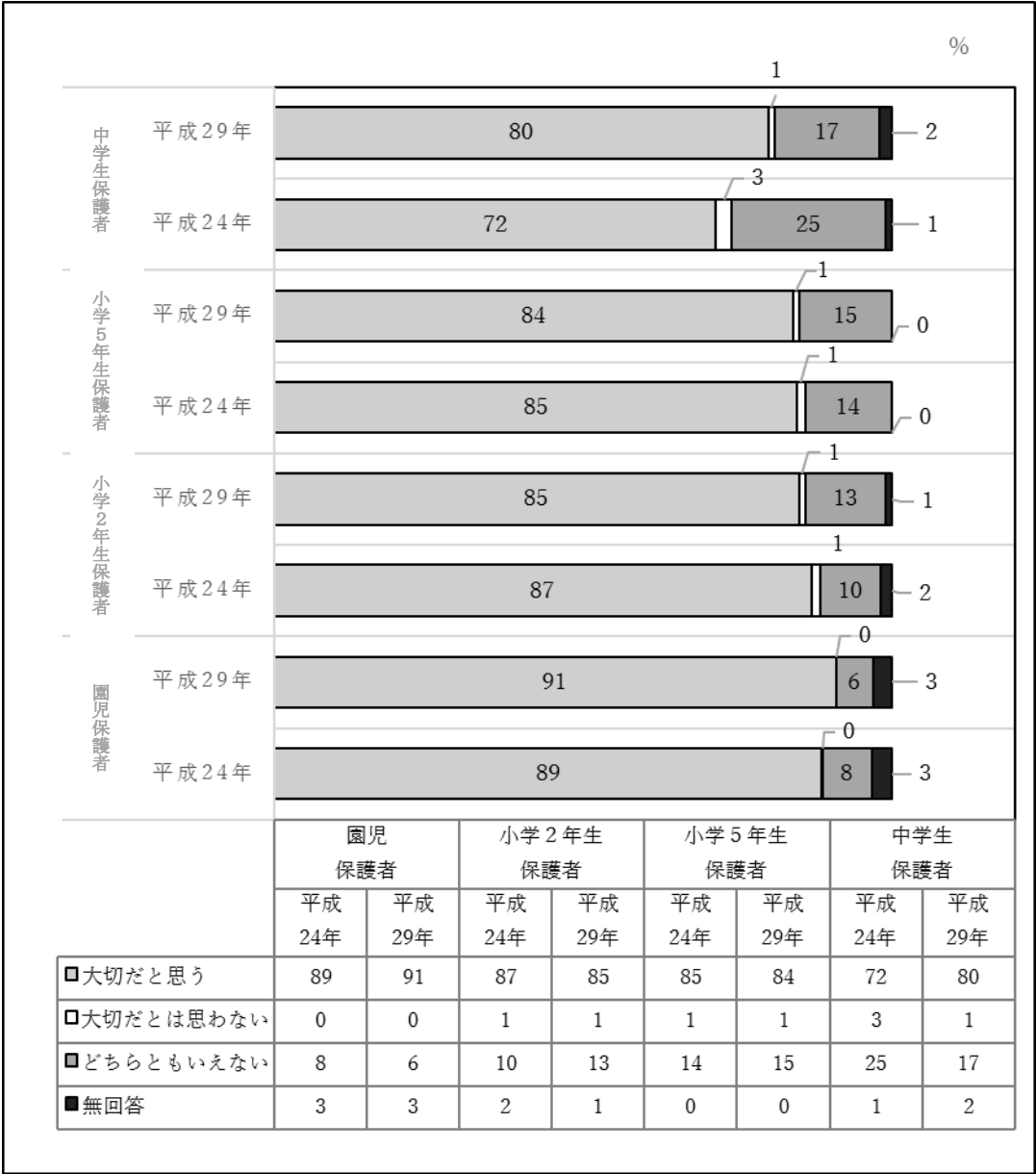
平成24年



読み聞かせをしていない理由は、「自分が忙しい」が平成24年は51%、平成29年は48%で、およそ半数を占めています。その他の意見として、保育園等2歳児の保護者からは「別の事への興味が強い」「本をやぶってしまう」、また、保育園や幼稚園の5歳児の保護者からは「自分で読みたがる」「子どもが他の遊びを優先させる」などの理由がありました。

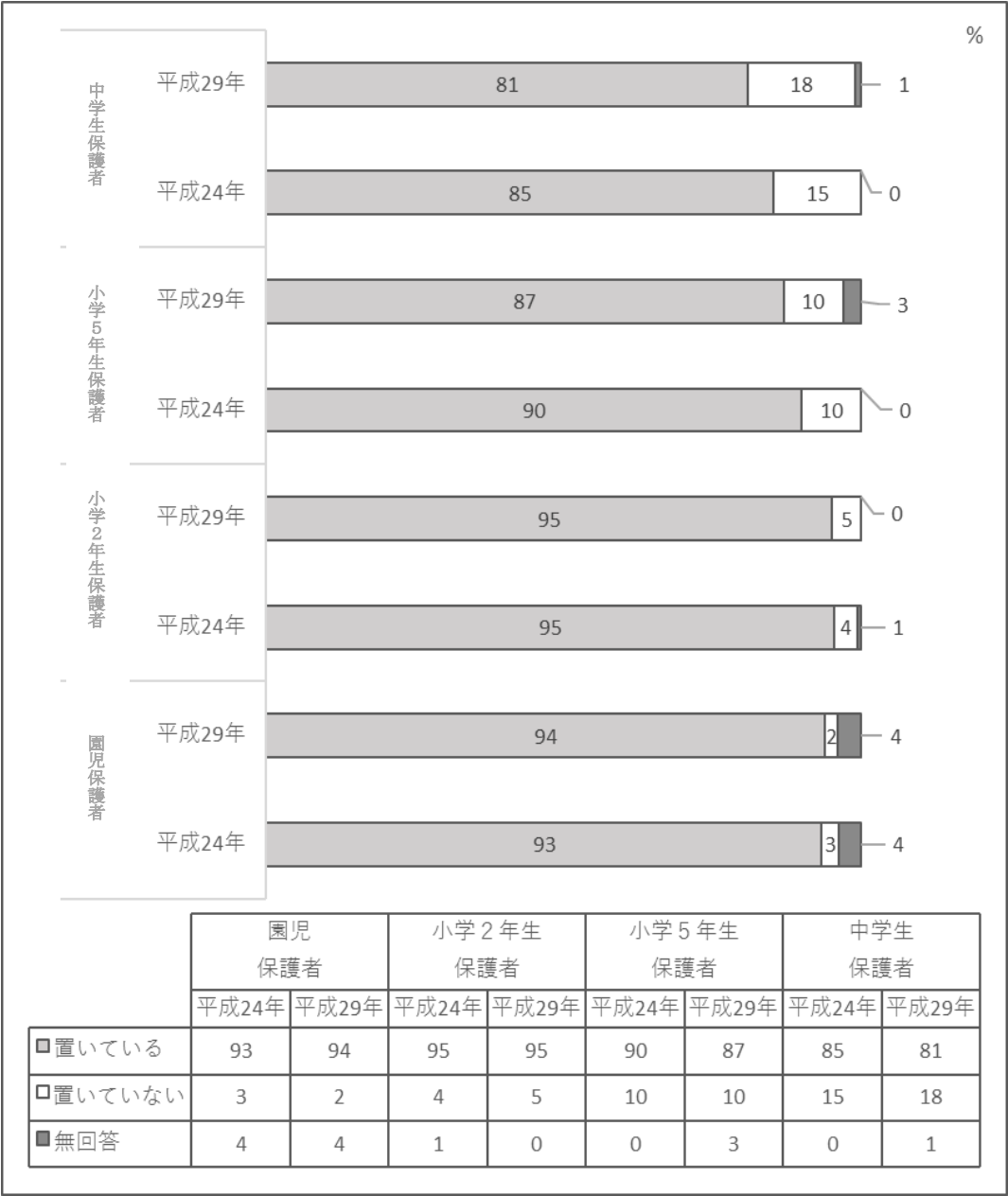
保育園・幼稚園・認定こども園の保護者に対する質問
小・中学生の保護者に対する質問

11 **読み聞かせをすることは、大切だと思いますか？**



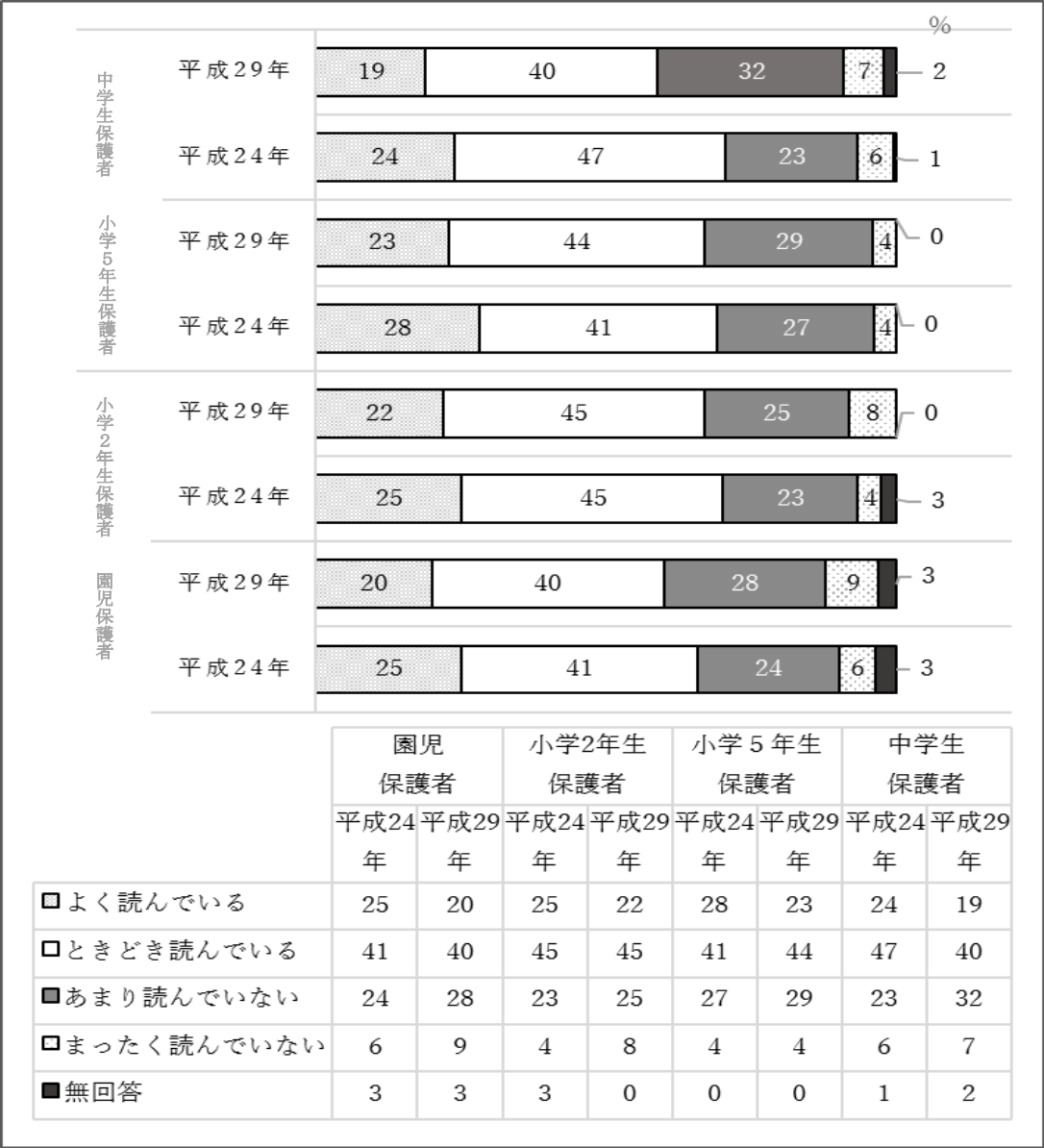
平成 29 年に読み聞かせをすることは「大切だと思う」と答えた保護者は、保育園・幼稚園から中学生までそれぞれ、91%、85%、84%、80%であり、全体を通して 8 割を超えています。平成 24 年に 72%だった中学生の保護者も 80%に増加しています。学年が上がるにつれて「大切だと思う」は減少傾向にあります。また、「大切だとは思わない」「どちらともいえない」と回答する保護者も平成 24 年と同じように、学年が上がるにつれて増加する傾向にあります。

12 あなたのご家庭では、お子さんがすぐ手に取れる所に本を置いていますか？



家庭において「子どもがすぐ手に取れる所に本を置いているか」という問いに対し、平成 29 年では、保育園・幼稚園から中学生の家庭でそれぞれ 94%、95%、87%、81%と、ほとんどの家庭ですぐ手に取れるところに本を置いていると答えています。中学生のいる家庭では平成 24 年が 85%に対し今回は 81%となり、若干減少しています。

13 あなたやご家族の方は、本を読んでいますか？（％）



「あなたやご家族の方は本を読んでいますか」という問いに対し、平成24年と平成29年を比較すると、全体を通じて「よく読んでいる」が減少傾向にあり、「あまり読んでいない」が増加傾向にあります。平成29年に「よく読んでいる」「ときどき読んでいる」と答えたのは、保育園・幼稚園児から中学生まで、それぞれあわせて60%、67%、67%、58%となっており、平成24年がそれぞれ66%、70%、69%、71%であったのとは比べて全体的に減少傾向にあり、特に中学生の保護者が13ポイント減少しています。

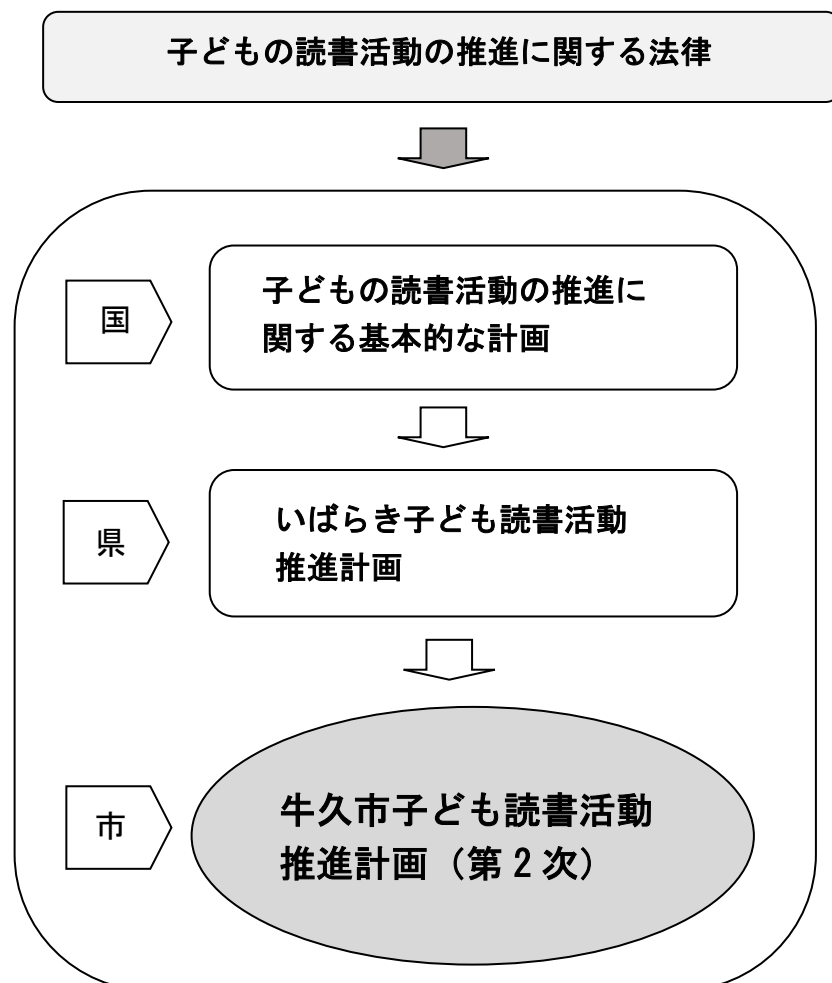
Ⅱ 計画の概要

1 計画の目的

すべての子どもが豊かな読書活動を経験する機会を得て、生涯において自主的な読書活動を行うことができ、より豊かな人生を送れるよう支援します。

2 計画の位置づけ

この計画は「子どもの読書活動の推進に関する法律」第 4 条及び第 9 条第 2 項に基づき、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び茨城県の「いばらき子ども読書活動推進計画」を基本とし、牛久市においては平成 25 年 3 月策定の「牛久市子ども読書活動推進計画」を基に（第 2 次）を策定するものです。



3 計画の対象

この計画は、0歳から18歳までの子どもを対象としています。

4 計画の期間

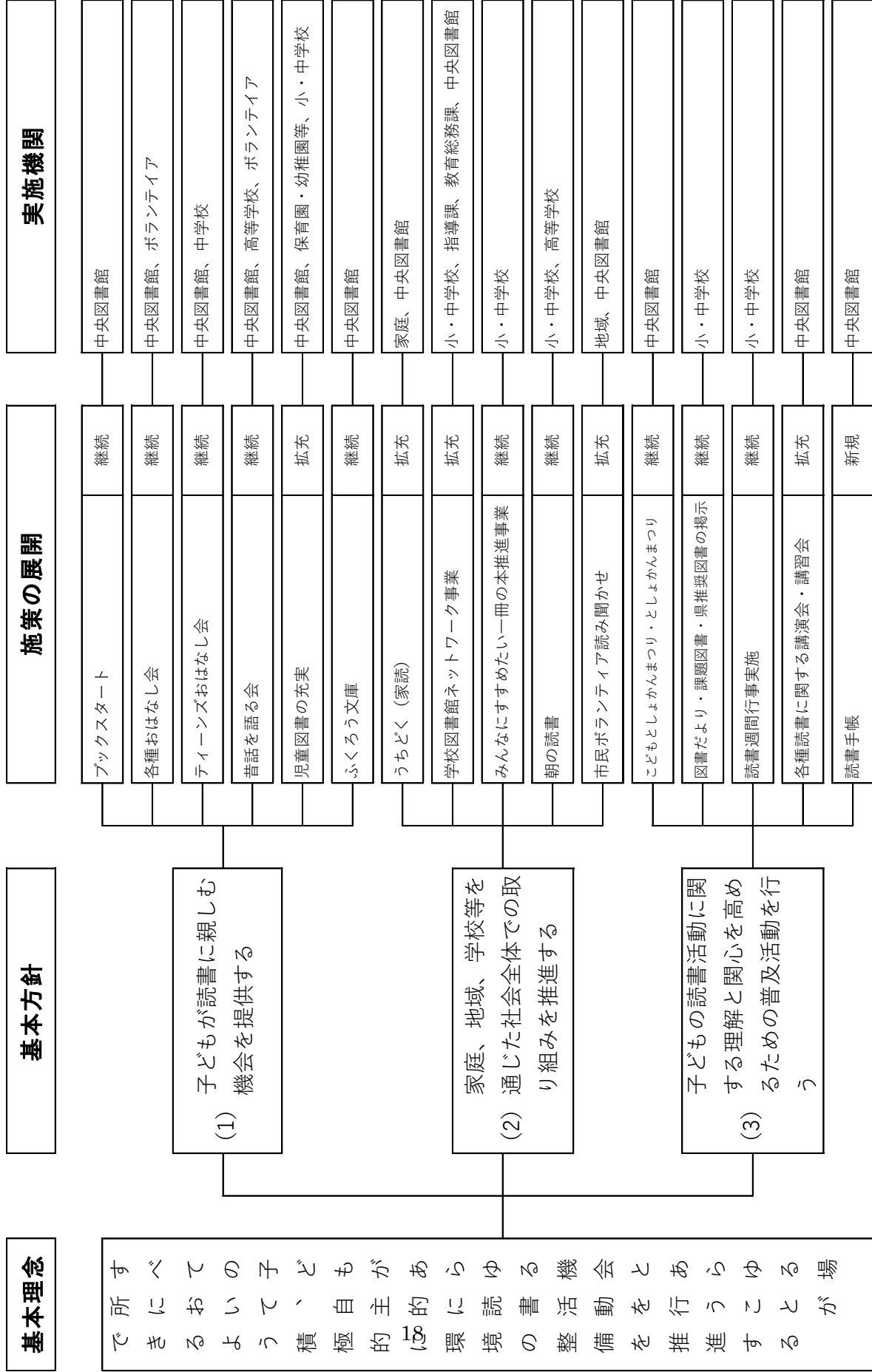
平成30年度から平成34年度の5年間とします。

5 計画の基本的方針

- (1) 子どもが読書に親しむ機会を提供する。
- (2) 家庭、地域、学校などを通じた社会全体での取り組みを推進する。
- (3) 子どもの読書活動に関する理解と関心を高めるための普及活動を行う。

上記3点を基本とします。

6 計画推進のための施策の体系図



第2章 子どもの読書活動推進のための具体的な取り組み

1 家庭

(1) 現状・課題

本市が平成29年7月に行った「読書に関するアンケート調査」では、「読み聞かせをすることは、大切だと思いますか」という問いに対し、「大切だと思う」と回答した保護者の割合は、保育園・幼稚園等が91%、小学2年生が85%、小学5年生が84%、中学生が80%と、読み聞かせを大切と考えている保護者が多いことがわかります。平成24年に72%だった中学生保護者が80%となり、平成29年では全体を通して8割を超えています。しかし、「いつ頃まで読み聞かせをしていましたか」という小中学生保護者への問いに対しては、「小学校に入学するまで」が多く、その理由として「子どもがひらがなを読めるようになった」、次に「自分が忙しい」となっています。

また、今、子どもの「読書離れ」が懸念されていますが、「どうすれば子どもたちがもっと本を読むようになると思いませんか」という小学生・中学生保護者への問いに対し、平成24年、29年とも「家族が本を読む姿を見せる」「図書館・書店へ家族で出かける」という家庭内読書に結びつく回答が上位を占め、次に多い回答が「テレビ・パソコン・携帯電話の時間を短くする」となっています。

一方で、「ご家族で、本について話をすることがありますか」という問いに対し、「よく話す・たまに話す」と回答した子どもの割合は、平成24年で、小学2年生・5年生合わせて52%、中学生が34%、高校生が24%と年齢が上がるにつれて減少していましたが、平成29年ではそれぞれ53%、24%、24%となり、特に中学生では平成24年と比べると10ポイント減少しています。このことから、保護者の家庭内読書への意識は子どもの年齢に関わらず高い傾向にあります。実践するのは年齢が高くなるにつれ難しくなることがわかります。また、家庭内においても、テレビやインターネットなどの情報技術の発達により、生活環境が変化し、家族間で時間を共有することが難しくなっていることがうかがえます。

本市図書館が行った「読書に関するアンケート調査」においては、図書館が行っている「うちどく」の実施率は平成24年41.7%、平成29年52.3%で10.6ポイント参加者が増加し、「うちどく」を行ったことがある児童・生徒はおよそ半数に上ります。子どもが多くの時間を過ごす家庭においては、保護者が読書活動の価値を認識し、子どもに対する一方的な支援ではなく、

家族が一緒に読書を楽しむことにより、子どもが読書に対する興味や関心が自然に高まるような環境づくりが望まれます。

(2) 方策

子どもの生活の基本となる場は、家庭です。子どもの読書活動を推進するうえでも重要な場となる家庭では、以下のような取り組みを行うことが望まれます。また本市では、保護者に対して、読み聞かせや読書の重要性について理解と促進を図るための啓発・広報活動を行い、さらに各関係機関が連携・協力し、家庭での取り組みを支援していきます。

○うちどく(家読)の実施

「うちどく（家読）」とは、家族みんなで同じ本を読んで、読んだ本について話をすることです。読書の習慣を共有化し、家族間のコミュニケーションを図ることで、家族の絆を強くしようという読書スタイルです。お互いに本をすすめあう、家族そろって本を選ぶなど、読む本について相談しあうことでもコミュニケーションが深まります。また、読んだ本について記録することにより、家族全員がそろって読書をする時間がなくても、一緒に楽しむことができます。家族で読書を楽しむために、ゲームやテレビなどを控える時間をつくることも大切です。

○読み聞かせの実施

子どもに絵本の読み聞かせをすることで、絵本をなかだちにした心ふれあう時間を持つことは、子どもに大きな安心感をもたらし、子どもの豊かな心、保護者と子どもの絆を育てます。短い時間でも読み聞かせを続けることが、本に親しみや興味を持ち、豊かな言葉を育て、読書習慣を身に付けることにつながります。また、自分で本が読めるようになって、読み聞かせの時間をもつことでコミュニケーションが生まれ、楽しいと感じる読書体験を続けることも、自発的な読書活動につながります。

○家庭の中に本がある環境づくり

子どもは、読書に親しむ保護者の姿を見て、読書を楽しいものと感じることができます。そのことが子どもの自発的な読書活動につながります。身近なところに本を置くことが、本に親しみや興味を持ち自発的な読書と読書習慣を身に付けることにつながります。その際、図書館などの本を利用することも、おすすめします。

○家族での図書館利用

図書館では、赤ちゃん絵本をはじめとするさまざまな分野の図書と出会うことができます。そのような出会いが読書の幅を広げ、自発的な読

書活動につながります。また、幼い頃から家族と一緒に図書館を利用することで、図書館利用が定着し、読書だけでなく図書を使って調べる習慣なども身に付きます。

○読書活動行事への参加

図書館で行っているおはなし会など各関係機関による読書活動の行事に参加することにより、子どもが読書の楽しさを実感し、本に興味をもつきっかけをつくることができます。また、保護者が一緒に参加することで家庭での読み聞かせなどにつなげることもできます。

○読書手帳の活用

読書手帳は、図書館で本を借りたときに、借りた本の情報が記載されたシールをプリントアウトして読書手帳に貼ることで、自分だけの読書記録を作ることができます。子ども用（青）と大人用（緑）の2種類作成し、子ども用は手帳がいっぱいになると新しい手帳と達成シールを交付します。読書手帳は、図書館利用の活性化はもとより、子どもたちの読書の定量化や読書活動へのアドバイスなどに活用することができます。「読書応援グッズ」としても期待されており、読書履歴を「見える化」することで読書意欲を高めます。



< 読書手帳 >

2 保育園・幼稚園・認定こども園

(1) 現状・課題

平成 29 年 7 月に行った「読書に関するアンケート調査」では、市内保育園・幼稚園等における各施設の読書環境や読書意識などの現状を把握するための施設調査も併せて行いました。この調査によると「施設内に図書コーナーや図書施設はありますか」という問いに対し、約 7 割の施設は「設置している」と回答していますが、「設置がない」と答えた施設もありました。国の計画の中でも子どもの読書活動の推進のための取り組みとして、「幼稚園・保育園等においても子どもが絵本等に親しむ機会を確保する観点から安心して図書に触れることができるようなスペースの確保に努める」とあることから、全施設において図書コーナーなどの設置や、図書の整備などを働きかけることが必要です。また、「どのような読書活動をしていますか」という問いに対し、「絵本や紙芝居などの読み聞かせを実施している」と答える施設が 8 割近くあり、その頻度についても「毎日」と答えている施設が多いことから、読み聞かせ活動の重要性について高い認識がうかがえます。さらに、「園児に、本を大切にする指導をしていますか」という問いに対し、約 9 割を超える施設が「指導している」と回答しています。今後は園児に本を大切に扱うことを教えるとともに、本への興味や関心が高まるよう読み聞かせ活動の推進に努めます。

(2) 方策

子どもが幼児期に読書の楽しさを知ることができるよう図書館は保育園・幼稚園等の自主的な読書活動を奨励し、以下の取り組みを支援していきます。

○読み聞かせ・おはなし会の実施

日常の保育・教育活動の中で絵本などの読み聞かせを行い、園児が絵本に親しむ機会を提供します。また、保護者やボランティアによる読み聞かせ活動を奨励し、おはなし会の実施など読書活動の充実に努めます。

○読書環境の整備・充実

園児が絵本などに積極的に親しめるよう、園内の図書コーナーを整備・充実させていきます。家庭において読書に親しむ機会を提供するために図書館は、絵本などの貸出や、子どもの成長に合わせた絵本の紹介を行うなど、図書の選定などの助言や支援を行っていきます。

○保護者への啓発

園児の保護者に対し情報提供をするとともに、読み聞かせや読書活動の大切さや意義を伝えていきます。

3 小・中学校

(1) 現状・課題

本市では学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能を果たすため、平成13年度より司書教諭に加え、常勤学校司書の全校配置、平成16年度より「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」及び蔵書のデータベース化、平成28年度からは小中一貫教育を推進し、9年間の系統的な図書館利用教育に取り組んできました。人的・物的環境の整備に努め、探究的な学習活動等を行うことで、読書に親しみ、主体的に図書を活用することのできる児童・生徒の育成を目指しています。

平成29年7月に行った「読書に関するアンケート」調査によると、小学2年生・5年生は平成24年と同様に8割以上が「本を読むことが好き」と回答しているのに対し、中学2年生は67%となり、この5年間でやや読書意欲の後退が見られます。一方で学校図書館の貸出冊数は、第1次計画の数値目標を上回り、1ヶ月の読書冊数を問う項目でも10冊以上と回答する生徒が8%から25%に増加しているため、読書意欲の二極化が進んでいることが明らかになりました。

本を読むことが好きではない理由として、最も多かったのは平成24年と同様に「文字を読むのが面倒」という回答です。また割合としては低いものの「面白い本にあったことがない」という理由もすべての学年で平成24年に比べ、増加傾向にあります。ブックトークや読み聞かせなど従来の推進活動に加え、友人同士で本を紹介し合うビブリオバトル、読むことに積極的ではない児童生徒も参加する機会である読書会、「とも読」など、本を好きになる多様な契機を設けることが今後も一層不可欠です。

アンケート調査では、学年が上がるにつれて、家族で本について話す機会が減っている現状も伺えます。小学2年生・5年生では「本についてよく話す」・「たまに話す」が合わせて半数以上なのに対し、中学2年生では約2割です。今回のアンケート結果を踏まえても家庭でのコミュニケーションと読書量は相関関係があり、読書活動を推進していく上で家庭への働きかけが課題となります。学校図書館の地域開放や図書だよりの発行、「うちどく」の実施など、家庭にも読書活動に関心を持ってもらうための工夫が必要です。

また平成29年のアンケート項目に加わった電子書籍の利用経験の有無についてですが、小学2年生21%、小学5年生27%、中学2年生40%という結果で、今後も利用拡大が予想されます。電子書籍を含め、これまでと同様に読書の質や情報活用能力を高める支援を続けていくことが重要となります。

(2) 方策

小中一貫教育を推進し、9年間の系統的な図書館教育を実現させることで、国語力を向上させ、年齢が上がるにつれて衰退傾向にある読書意欲や読書習慣を維持できるよう取り組みます。また、生涯にわたって読書に親しむ礎を築き、自ら課題を発見、解決へと導くための情報収集活用能力を育成することを支援します。

○「学校図書館ネットワーク」の積極的な活用

- ・ 図書を活用した授業の研究
- ・ ニーズに応えられる学校図書館運営

○読書を楽しみ、読書を通じた交流の推進

- ・ 読み聞かせや朗読などの実施と充実
- ・ うちどく（家読）の勧奨
- ・ 朝読書の充実
- ・ 読書会の実施
- ・ 読書週間行事の実施
- ・ 多様な読書活用の実施（とも読、ビブリオバトル等）

○読書意欲と読書力の育成・向上

- ・ 読書の時間の有効活用
- ・ 図書の紹介（ブックトークや図書だよりなど）
- ・ 推薦図書リストの作成
- ・ 「みんなにすすめたい一冊の本」事業の推進
- ・ 授業でのより有効な図書活用の研究
- ・ 読書手帳の活用推進

○探究心と課題解決スキルを育てる図書館利用教育の充実

- ・ 図鑑、百科事典等の使い方指導の計画的実施
- ・ 小中学校が連携した系統的な図書館利用教育
（市内共通オリエンテーションワークシートなど）

4 高等学校

(1) 現状・課題

本市が、平成 24 年 11 月に生徒を対象に行った「読書に関するアンケート調査」では、「本を読むことが好きですか」という問いに対し、回答した高校 2 年生の 77%の生徒が「好き」と答えているのに対し、平成 29 年 7 月のアンケートでは 67%となり 10 ポイント減少しました。また、「好きではない」と答えた生徒は、23%から 33%に増加しています。好きではない理由としては、平成 24 年、平成 29 年共に「文字を読むのが面倒」、次いで「どんな本を読んだらいいかわからない」となっています。

平成 24 年に 8 割弱、平成 29 年に 7 割に近い生徒が「本を読むことが好き」と回答しているにもかかわらず、「あなたは本をこの 1 ヶ月に何冊読みましたか」という問いに対しては、平成 24 年に 51%、平成 29 年に 56%の生徒が「0 冊（読まなかった）」と答えています。この読まなかったと答えた生徒に対し「読書よりしたいことは何ですか」と問うたところ、「テレビ・ゲーム・パソコン・携帯電話」という回答が平成 24 年に 39%、平成 29 年に 40%でおよそ 4 割を占めており、情報メディアの普及が生徒の読書活動に影響を与えている様子がうかがえます。

また、学校図書館の利用状況についての「あなたは休み時間や放課後に学校図書館へ行きますか」という問いについては、平成 24 年 84%、平成 29 年 87%の生徒が「ほとんど行かない」と答えています。

平成 29 年 7 月に行った「読書に関するアンケート調査」では、市内高等学校における各校の読書環境や読書意識などの現状を把握するための学校図書館の調査も併せて行いました。この調査によると、「高校で行っている読書活動は何ですか」という問いに対しては、「学校、図書館の先生、生徒による本の紹介」「読書推進のためのイベント、研修会、講演会などの開催や案内」という回答がありました。それ以外の具体的な取り組みとしては、新刊図書の紹介、生徒の希望にあわせた特集コーナーや季節にあわせたお薦め本のコーナーの設置、生徒による近隣の小学校への読み聞かせ、夏休み前の朝読書の実施など様々です。

また、生徒数、蔵書数、貸出数から、この 1 年間の生徒 1 人あたりの貸出数の平均は 1.3 冊、蔵書回転率は 0.04 回、生徒一人当たりの蔵書数は 28 冊で、学校図書館の貸出は多くはありませんが、蔵書数は充実していることがわかります。高校生のさらなる読書活動の推進のためには、学校図書館の利用に対する働きかけが課題となっています。

さらに、「市などの図書館へ行きますか」という問いについては、「行かない」と答えた生徒が平成 24 年に 58%、平成 29 年に 62%と、およそ 6 割の生徒が利用していないと回答しています。今後、市立図書館の利用を促すような施策の企画・立案が必要です。

(2) 方策

高等学校と市立図書館の連携を図り、様々な企画や活動を通して高校生の読書活動を促進し、支援していきます。

○読書意欲の向上と図書館の活用

- ・ 推薦コーナーなどの設置
- ・ 授業での図書館の活用
- ・ 図書館イベントの広報の拡充

○読書を通じた交流の推進と図書館の連携

- ・ 高校生も対象とした読書講座への参加促進
- ・ 市の図書館イベントへの高校生の参加

5 図書館

(1) 現状・課題

市立図書館では、子どもやその保護者に対して、子どもの読書活動を推進するための取り組みを実施しています。

本市が平成 29 年 7 月に行った「読書に関するアンケート調査」では、「本を読むことが好きですか」という問いに対し「好き」と回答した子どもの割合は、児童は 8 割以上、生徒は 6 割以上に達しています。

しかし、「読みたい本はどのように手に入れますか」という問いに対して「市の図書館で借りる」と回答した子どもの割合は、平成 24 年 11 月に行った調査では、平成 24 年度では、小学 2 年生が 33%、小学 5 年生が 38%、中学 2 年生が 15%、高校 2 年生が 16%であったのに対し、平成 29 年度では、それぞれ 39%、34%、18%、12%と、増減があることが分かります。

また、「市立図書館をどのように利用していますか」という問いへの回答を平成 24 年 11 月に行った調査と比較すると「調べものをする」「イベントに参加する」「勉強をする」という項目を選ぶ子どもの割合が、ほとんどの児童・生徒で増加しています。これは、図書館は本を読む・借りるだけの場所ではないということが認知されてきたこと、また図書館の多様な利用の仕方が求められているということがわかります。

共働き家庭が増加している昨今、牛久市でも子育て中の母親の就業率は、未就学児が 58.1%、小学生が 63.6%（牛久市子ども・子育て支援事業計画平成 27 年 3 月策定より）となっており、家族で過ごす貴重な時間の充実が求められています。家庭での読み聞かせなどの継続的な読書活動の支援だけでなく、各種イベントなどへ家族での参加を促し、そこから家庭内読書にもつながるような取り組みが必要であると考えます。また、保育園や幼稚園等、学校、市内子育て施設・教育施設などの、市立図書館以外における子どもの読書活動支援が重要であると考えます。



< 0 歳からのクラシックコンサート >

(2) 方策

市立図書館では、以下の取り組みを推進していきます。

○ブックスタート事業の推進

ブックスタートは、赤ちゃんと保護者に、絵本を開く楽しい「体験」と、「絵本」を手渡し、心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動です。地域に生まれたすべての赤ちゃんを対象に、0歳児健診などで実施されます。

本市ではボランティアの協力を得て、保健センターで行われる3～4か月児健診に出向き、保護者と赤ちゃんに絵本を手渡し、本との出会いの場を提供していきます。

ブックスタートのフォローアップ事業として、司書による「親子わらべうたの会」を開催します。親子で一緒に楽しく遊びながら心地の良い時間を過ごすことができる「わらべうた」から、自然と絵本に興味をもつようになるだけでなく、中央図書館以外での読書活動支援の充実のために、三日月橋生涯学習センター及び奥野生涯学習センターで実施していきます。また、乳幼児を連れての来館を促すため「0歳からのクラシックコンサート」など様々なイベントを開催します。

○読書手帳の普及の推進

読書手帳サービスは、図書館で本を借りたときに、借りた本の情報が記載されたシールをプリントアウトして読書手帳に貼ることで、自分だけの読書記録を作ることができるサービスです。子ども用読書手帳は、本市では平成29年に導入し、同年には市内保育園・幼稚園・認定こども園の園児及び小・中学校の児童生徒全員に配布、市内の未就園児には中央図書館にて配布を行っています。また、シールがいっぱいになった読書手帳を図書館にお持ちいただくと、新しい読書手帳の配布及び小学生以下の子どもには、達成シールも交付します。この読書手帳は、シールを貼るだけでなく手書きで本の情報を記入することもできるため、家庭や学校図書館の読書記録としての活用を促すとともに、読書手帳を利用したイベントの開催や学校図書館との連携を進めていきます。

○定例おはなし会の開催

読み聞かせボランティアと連携し、子どもが読書の楽しさを実感し、本に興味を持つきっかけとなるよう、0～2歳児向けおはなし会、幼児向けおはなし会、小学生～大人向けおはなし会を実施し、あらゆる年齢の子どもに読み聞かせを実施していきます。

○各種講演会・イベントの開催

夏には夕涼みおはなし会、冬にはクリスマスおはなし会と季節を感じられるおはなし会を時期に合わせ実施していく他、市内5校の中学生による読み聞かせ（ティーンズおはなし会）を実施していきます。

また、春の「こどもの読書週間」や秋の「読書週間」に合わせ、読書の普及・啓発及び、新規利用者の来館を促す「こどもとしょかんまつり」「としょかんまつり」をそれぞれ年1回実施していきます。

さらに、近年家庭内において、男性の育児参加が増えており、男性の育児・子育てを支援するため「イクメン・イクジイ」読み聞かせ講習会を実施していきます。また、読み聞かせを家庭で行うために専門の講師を招いて年に数回読み聞かせ講演会を開催し、子どもや家庭・地域の読書に対する意識の向上を図ります。



<イクメン・イクジイ読み聞かせ講習会>



<ティーンズおはなし会>

○児童コーナーの充実

乳幼児を連れた保護者のための授乳室やおむつ替えシートなどの設備だけでなく、子ども用の椅子を増やすなど読書環境の設備を一層充実させます。

児童・生徒向けの読み物図書に関しては、絵本から童話、童話から物語、物語から文学へと読書興味の推移に合わせ、読書の幅を広げられるよう「小学校低学年～中学年向け」と「小学校中学年～中学生向け」にコーナーを分けて配架しています。

読み物以外の調べ物用図書に関しては、資料数の充実だけでなく、内容も精査し随時更新していきます。

また、子どもや保護者の選書の助けとなるよう、絵本ガイドコーナー、012 絵本コーナー、児童イベントコーナーのさらなる充実を図ります。

中学・高校生に対しては、YA（ヤングアダルト）コーナーの充実と周知に努めます。さらに、0歳児から中・高校生を対象として、年齢に応じたおすすめの本のリストを作成・配布し、読書活動の普及に努めます。

○うちどく(家読)事業の推進

家族みんなで同じ本を読むことをきっかけに、読書の習慣を共有化し、家族のコミュニケーションを図ることで、家族の絆を強くしようという読書スタイル「うちどく（家読）」事業を推進します。長期休業期間に学校を通した全児童・生徒への読んだ本を記録する「うちどく用紙」や「うちどくノート」の配付の他、「うちどく（家読）」を周知させるための「うちどく親子講座」を実施し、家庭内での読書活動の推進に努めます。

○学校図書館ネットワーク事業の推進

学校図書館ネットワーク事業は“本の共有で学びを豊かに”というコンセプトで市立図書館と学校図書館が蔵書を共有することにより、学校教育における子どもの学びと読書を支援する事業です。人的・情報・物流の3つのネットワークから構成され、NPO 法人リーブルの会（以下「リーブルの会」という。）が図書の配送のために市内の小・中学校を週1度訪問し、学校で必要な資料を市立図書館からも提供していきます。学校図書館の質的向上を図り、図書や情報を使って子どもの学びが豊かになるよう、学校と教育委員会関係部署、その他各関係機関との連携など、学校図書館ネットワーク支援センター的機能の充実を目指します。

○市内子育て・教育施設の支援

学校図書館ネットワーク事業の効果を高めるため、「ふくろう文庫」と称した図書や紙芝居のセットをリーブルの会が市立保育園・幼稚園、市内児童クラブに配送します。また、こども家庭課が主催する「リフレ子育て出張広場」における司書による「絵本と遊ぼう」の実施の他、リーブルの会の紙芝居隊・音楽隊が児童クラブ、子育て広場に出向くなどして、子育て・教育施設を支援します。

○障がいのある子どものための支援

図書館を利用する際、特別な支援を必要とする子どものために、点字図書やさわって楽しむ絵本、録音図書などを収集し、整備・充実させていきます。また、近隣の特別支援学校の要請に応じ、読み聞かせボランティアやリーブルの会紙芝居隊の協力を得たおはなし会の実施、及び季節に合わせたおすすめ本の貸出を実施していきます。

○外国人の子どものための支援

日本語を母語としない子どものために、外国語で書かれた絵本や図書を収集した「外国語絵本コーナー」及び「外国語図書コーナー」の充実に努めます。

○子どもの読書活動推進や、図書館利用促進のための啓発・広報

図書館におけるおはなし会や各種講演会、イベント開催のお知らせをする「としょかんだより」を毎月1回発行し、子どもや保護者に、図書館での読書活動推進の取り組みを周知するため、広報活動の充実に努めます。

また、図書館からだけでなく、牛久市コミュニティ FM 放送局による「FM うしくうれしく放送」、市のホームページ・かっぱメール・ブログ・SNS など、各種メディアを利用した広報活動を行います。

市が実施している「行政情報出前講座」事業の一環として、司書が出向き、図書館で提供している様々なサービスの紹介や家庭での読み聞かせなどについての「出前講座」を実施していきます。

子どもたちに図書館の業務内容を身近に感じてもらうため、小学生の図書館見学、中学生の職業体験の受け入れを引き続き実施していきます。

○ボランティアの育成と支援

読み聞かせボランティアやブックスタートボランティアなど、子どもの読書活動に携わるボランティアの育成のため、読み聞かせ講習会などを実施していきます。また、ボランティア団体専用の利用者カードを作成し、読み聞かせに使用する図書及びパネルシアターや紙芝居枠などの資料・備品の貸出を実施していきます。

6 読み聞かせボランティア・地域読書活動推進団体

(1) 現状・課題

図書館や地域で行っている読書活動では、ボランティア及び地域読書活動推進団体が大きな役割を果たしています。図書館においては、5つの読み聞かせボランティア団体の協力を得て、子どもの発達段階に応じた「おはなし会」の他、「こどもとしょかんまつり」や「としょかんまつり」におけるおはなし会、「夕涼みおはなし会」、「クリスマスおはなし会」といった季節に合せたおはなし会を開催しています。

幼稚園・小学校においては、保護者などで組織された読み聞かせボランティアが、幼稚園・小学校に出向いて読み聞かせ活動を行うなど、活発な読書活動を行っています。さらにボランティア・地域読書活動団体などが、子育て支援施設や生涯学習センター・区民会館などを拠点とした読み聞かせ活動、地域によっては文庫活動を行っています。

課題としては、活動を安定的に行うことができるボランティアの確保が挙げられます。小学校・幼稚園・図書館の読み聞かせボランティアを対象としたボランティア交流会を年1回開催し、より充実した読書活動を実施するため、ボランティア相互支援と連携を求めています。

また、各地域に伝わる昔話の読み聞かせや紹介を積極的に行っているボランティア・団体が複数あり、そうした活動についても市は支援していく必要があります。

(2) 方策

○読み聞かせ・おはなし会の実施

日常の読み聞かせ活動に加えて、地域の催しで絵本などの読み聞かせを行い、子どもが読書に親しむ様々な機会を提供していきます。

○地域に伝わる昔話の伝承の推進

子どもが、自分が暮らしている地域に親しみや関心を持つよう、地域に古くから伝わる昔話の紹介や読み聞かせを行う活動を推進していきます。

○図書館主催の講習会への参加

図書館主催の読み聞かせ講習会に積極的に参加し、読み聞かせの技向上や活動のさらなる充実を努めます。

7 実施施策の数値目標

本市では、計画の進捗状況を把握するための指標として、次のとおり実施施策などの数値目標を設定します。

目標項目	(現 状) 平成 29 年度	(目 標) 平成 34 年度	備 考
本の入手方法の中での図書館の選択率	27.8%	35%	
図書館での取り組みの認知率	29%	35%	
うちどく（家読）の実施率	52.3%	55%	
学校図書館の利用件数 （図書館ネットワークの物流依頼件数も含む）	3,739件 （平成28年度）	4,000件	
学校図書館での児童・生徒の平均年間貸出冊数 （1人当たり）	小学校 57.7冊 中学校 11.1冊 （平成28年度）	小学校 58冊 中学校 12冊	
1か月に全く本を読まない児童・生徒の割合	小学校 3.4% 中学校 13.0%	小学校 2.4% 中学校 5.8%	

第3章 方策の推進体制の整備・充実

1 関係機関の連携・協力

子どもの読書活動の推進にあたっては、市内保育園・幼稚園をはじめ、地域、学校、市立図書館や読書活動推進団体、ボランティアの方々などが相互に情報交換や交流を通して連携、協力し、読書環境を整備、充実させていくことが大切です。本市では、子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう関係機関との連携をとりながら、支援していきます。

2 啓発、広報などの推進

市立図書館では「こどもの読書週間」（4月27日～5月10日）の期間中に、読書を通して多くのことを学べることを子どもたちに周知するために、ポスターの掲示やブックカバーの配布等を行い、読書活動の啓発と広報に努めます。さらに読書週間に併せて「こどもとしょかんまつり」を実施し、読書と子どもたちを結び付ける様々なイベントを行います。また、読書週間の期間外においても読書を楽しみ、読書を通じた交流の推進のために様々な行事を実施し、子どもの読書活動について関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるように努めます。

3 推進計画の進行管理・財政上の措置

本市の「子ども読書活動推進計画」の進捗状況を把握するにあたり、定期的に子どもの読書活動の実態を調査し、総合的かつ継続的な進行管理を行っていきます。

また、この計画に示した各種施策を実施し、環境を整備するために必要な財政上の措置を講じるよう努めます。

資料編

資料 1

平成 29 年「読書に関するアンケート調査」実施結果

1 調査の目的

このアンケートは、情報化の進展により子どもの「読書離れ」が懸念されるなか、一人ひとりの子どもが自然に読書に親しむことができるよう、子どもの読書環境を整備していくために策定する「牛久市子ども読書活動推進計画」の基礎資料とするもので、読書環境の現状を把握し、今後の読書活動の課題の洗い出し、また施策の方向性を探るため、実施したものです。

これらのアンケート結果から得られた情報は、この度策定する計画にできる限り反映させ、今後の子どもの読書活動推進のための貴重な資料として活用させていただきます。

2 アンケート対象者【回収率】

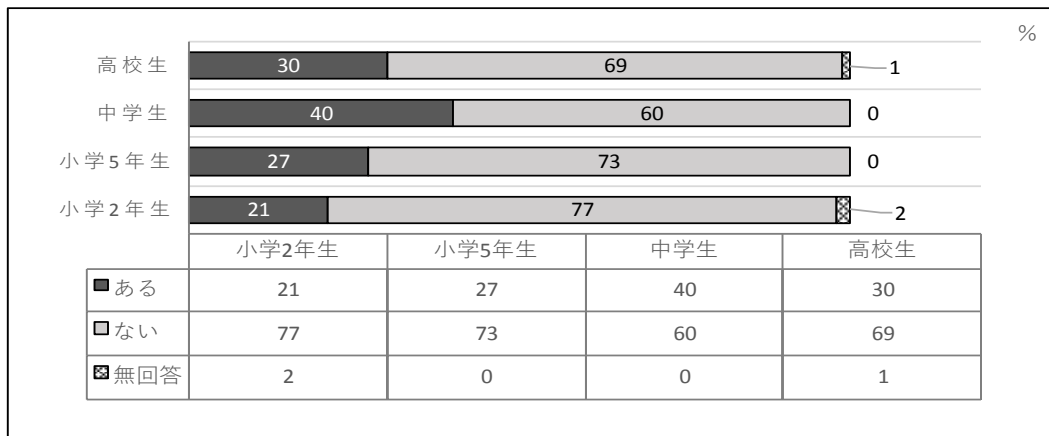
対 象	配布件数	回収件数	回収率
保育園等保護者 【2 歳児・5 歳児】	6 2 1	4 7 6	7 6. 7 %
幼稚園保護者 【5 歳児】	2 4 1	1 9 0	7 8. 8 %
小学 2 年生	4 5 4	3 7 6	8 2. 8 %
小学 5 年生	5 2 0	5 0 6	9 7. 3 %
中学 2 年生	3 7 3	3 4 6	9 2. 8 %
小・中学生の保護者	1, 3 3 2	9 6 5	7 2. 4 %
高校 2 年生	2 4 4	2 4 0	9 8. 4 %
合計	3, 7 8 5	3, 0 9 9	8 8. 9 %
施設・学校アンケート	市内保育園・幼稚園等 2 3 施設 高校 3 校		

3 調査期間 平成 29 年 7 月 11 日（水）～7 月 18 日（水）

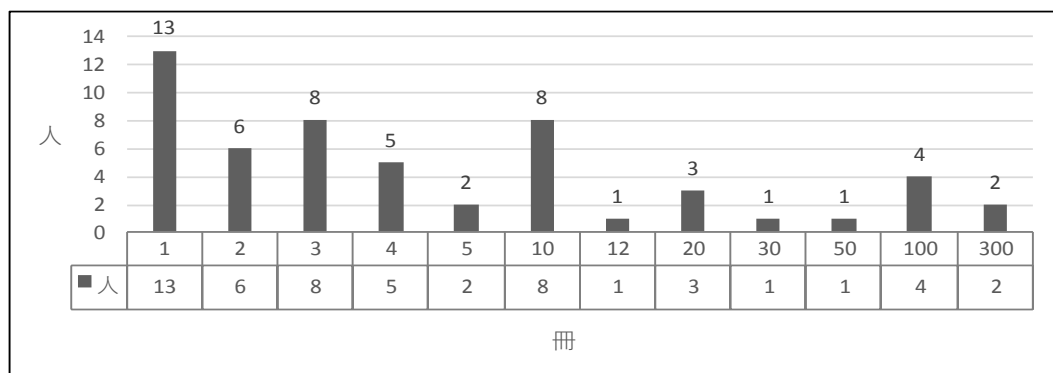
資料2

平成29年児童生徒アンケート実施結果

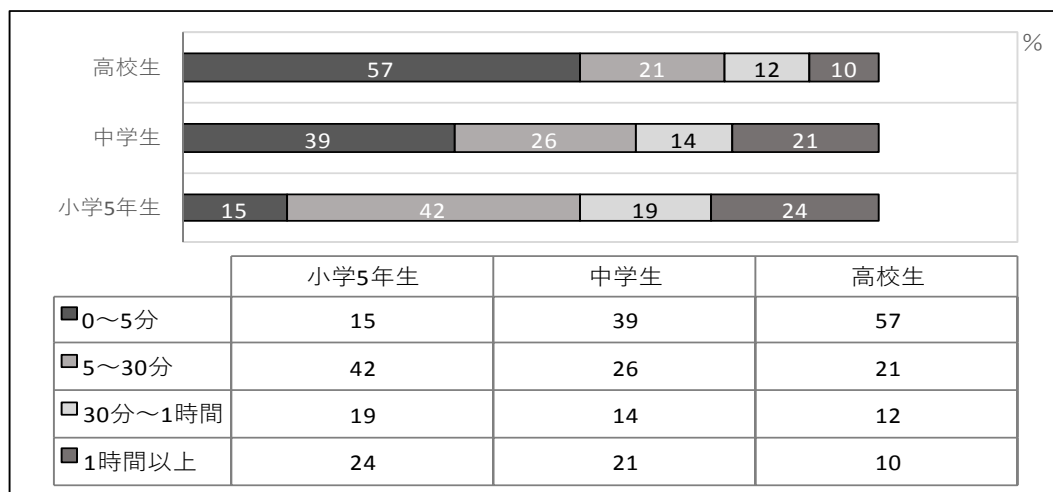
1 電子書籍を読んだことはありますか。



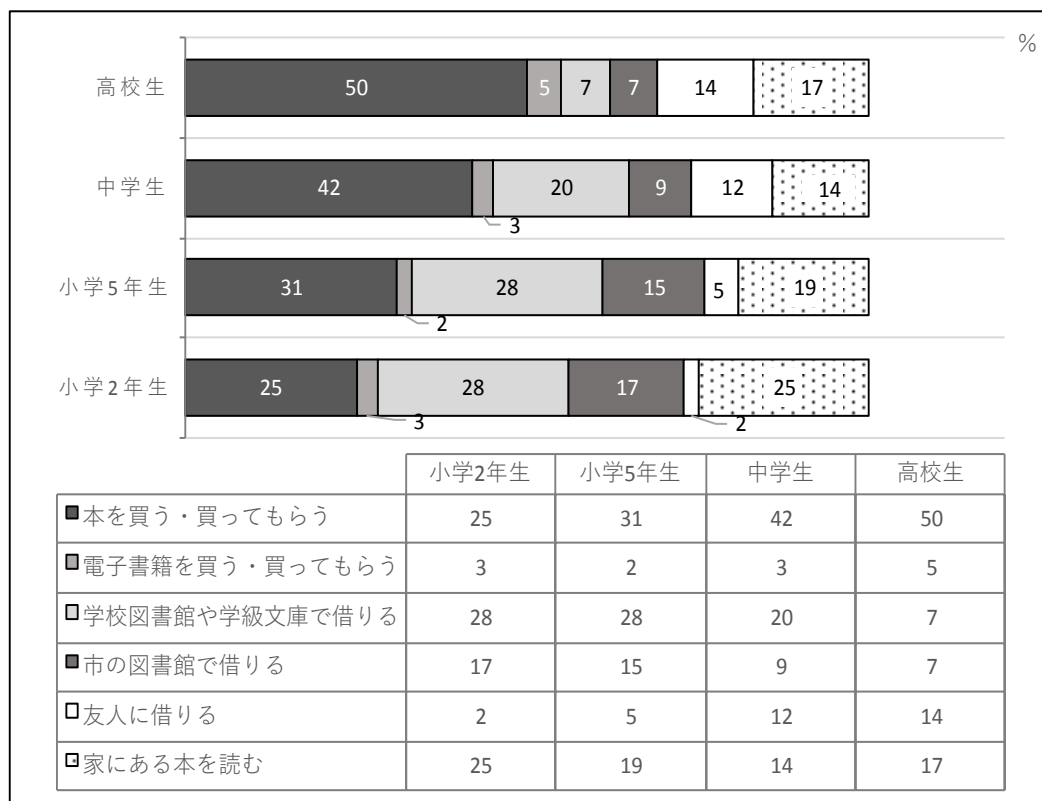
2 高校生になってから電子書籍を何冊ぐらい読んだことがありますか。



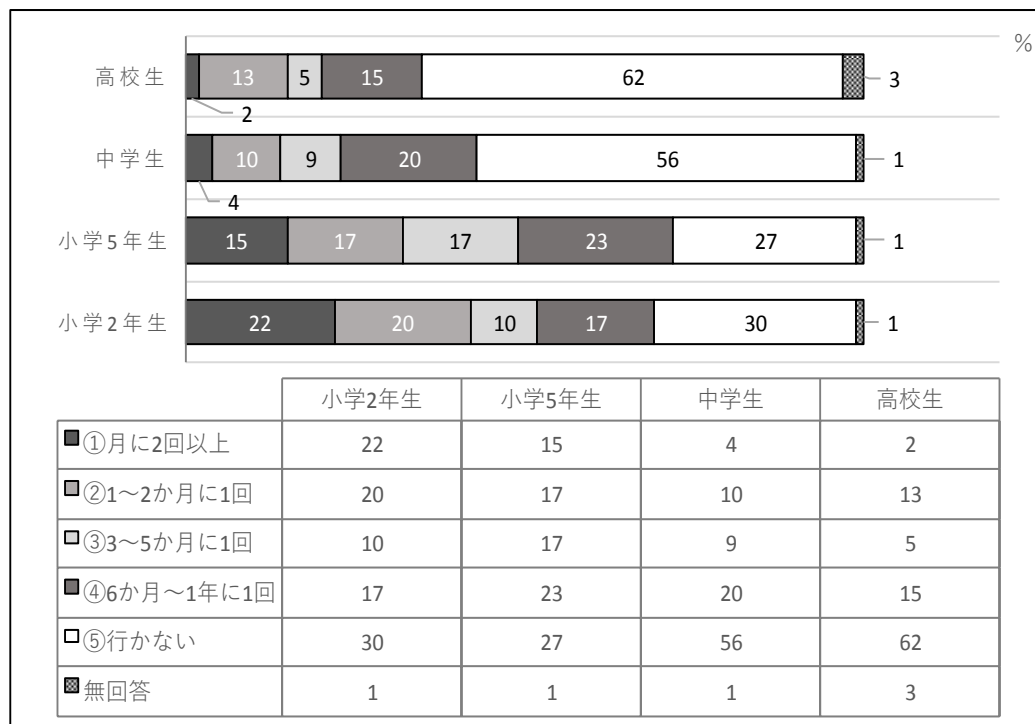
3 本をこの1週間で何分読みましたか。（「朝の読書」以外。マンガ・雑誌は除く）



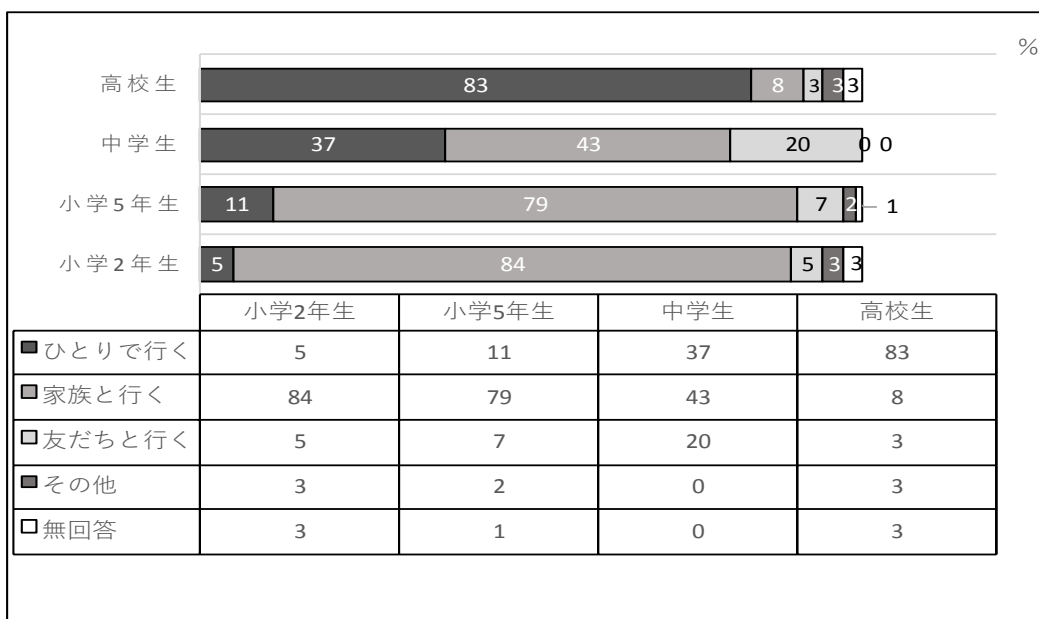
4 読みたい本は、どのように手に入れますか。（複数回答可）



5 あなたは市の図書館へ行きますか。

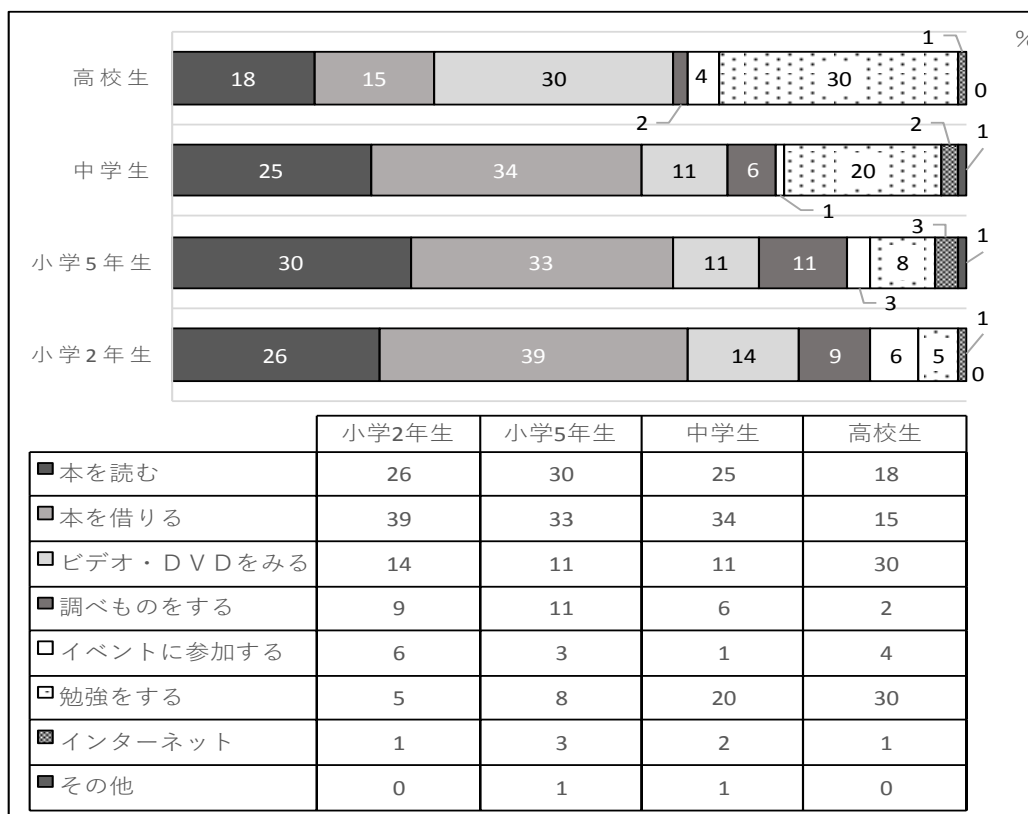


6 5で①②と答えた方。誰と行くことが多いですか。



7 5で①②と答えた方。市の図書館をどのように利用していますか。

(複数回答可)

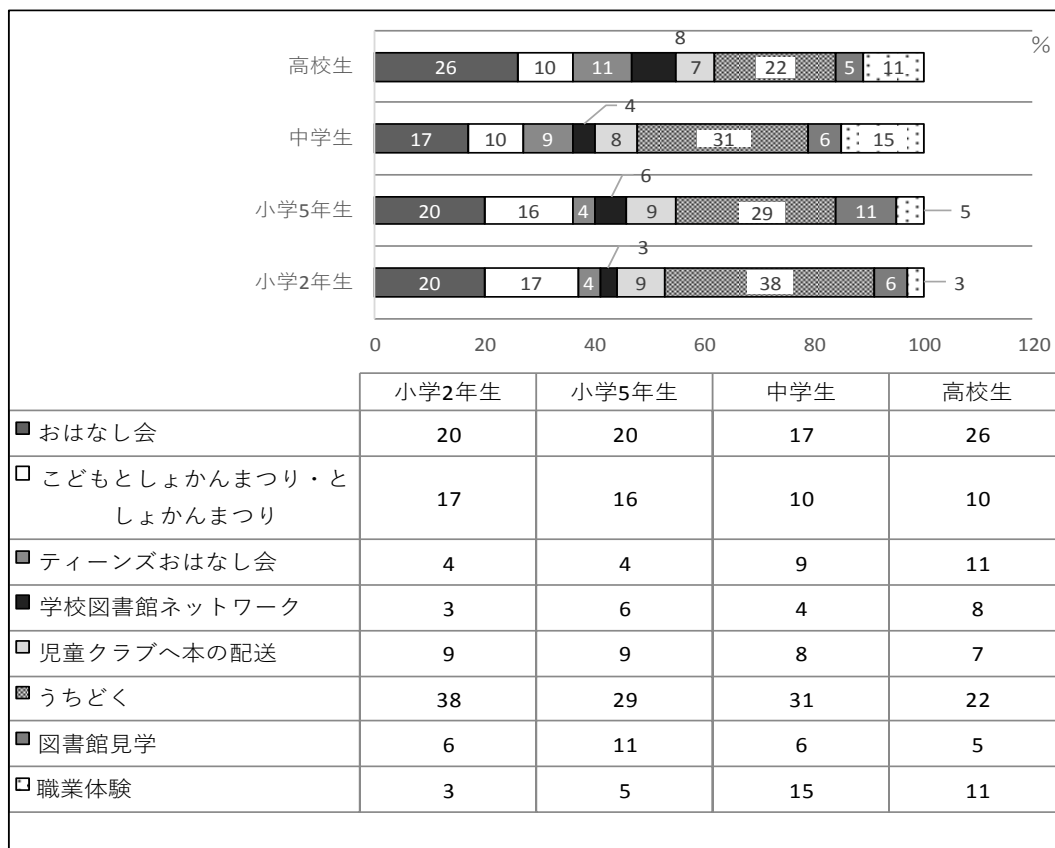


8 5で③④⑤と答えた方。市の図書館へ行かない理由は何ですか。

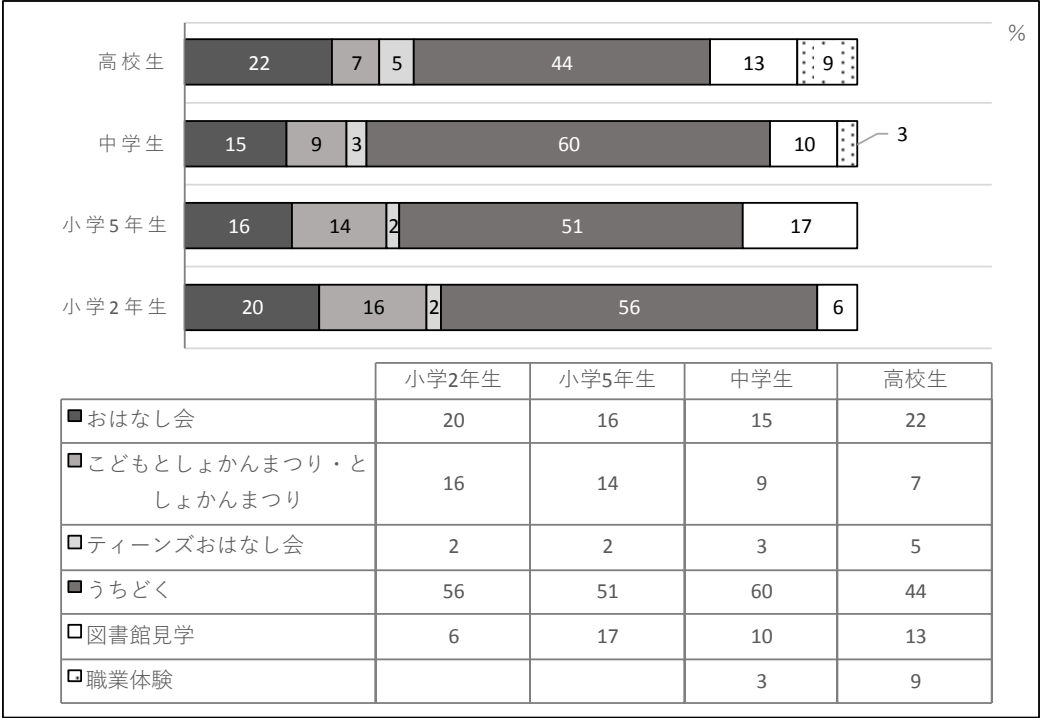
(複数回答可)



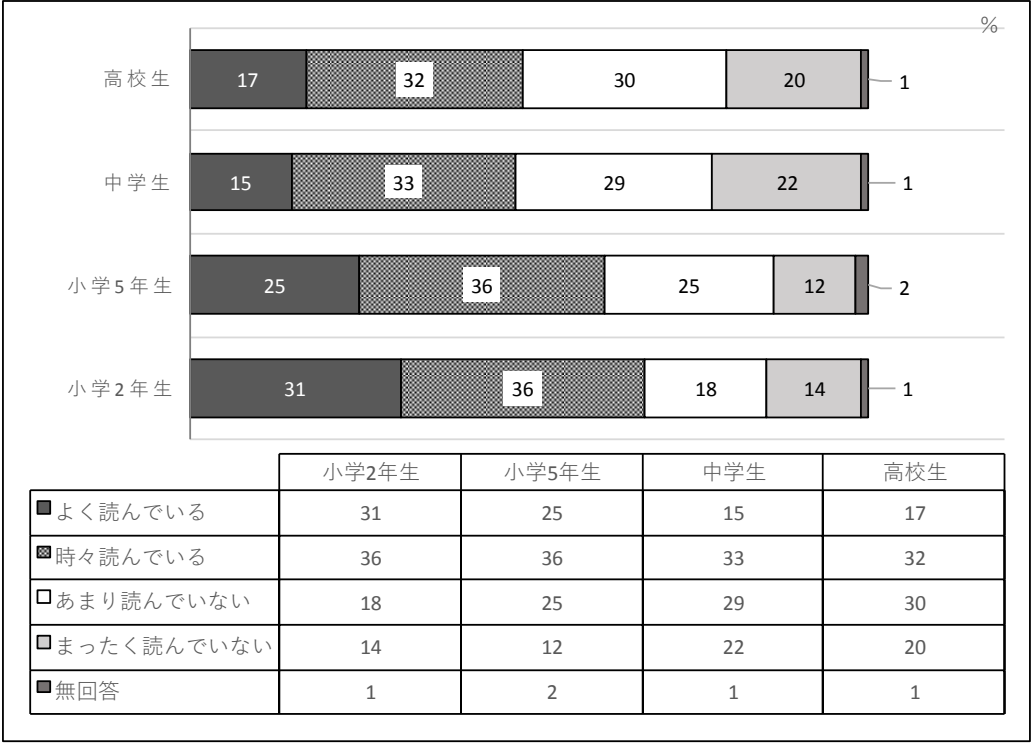
9 市の図書館で行っている取り組みの中で、知っているものは何ですか。(複数回答可)



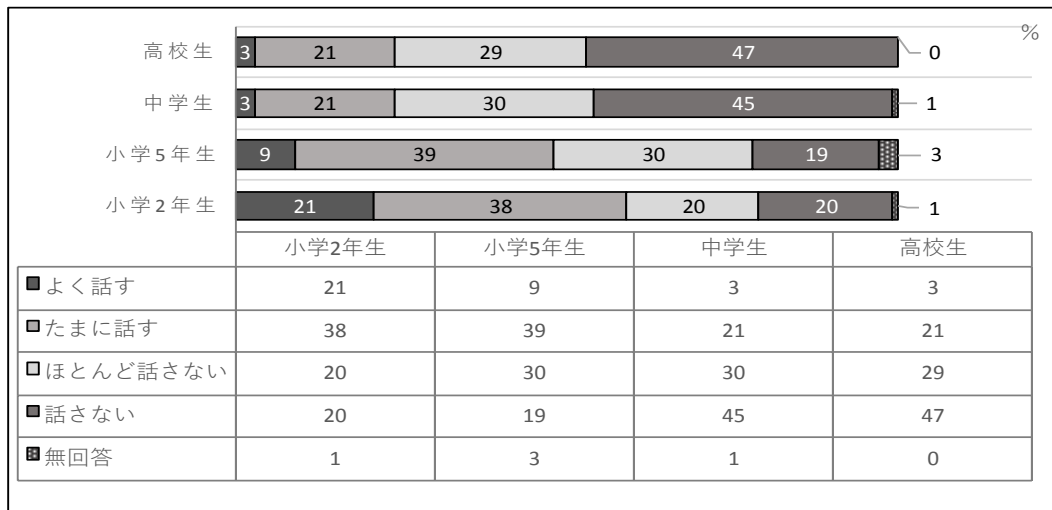
10 牛久市図書館で行っている取り組みの中で参加したことがあるものは何ですか。
(複数回答可)



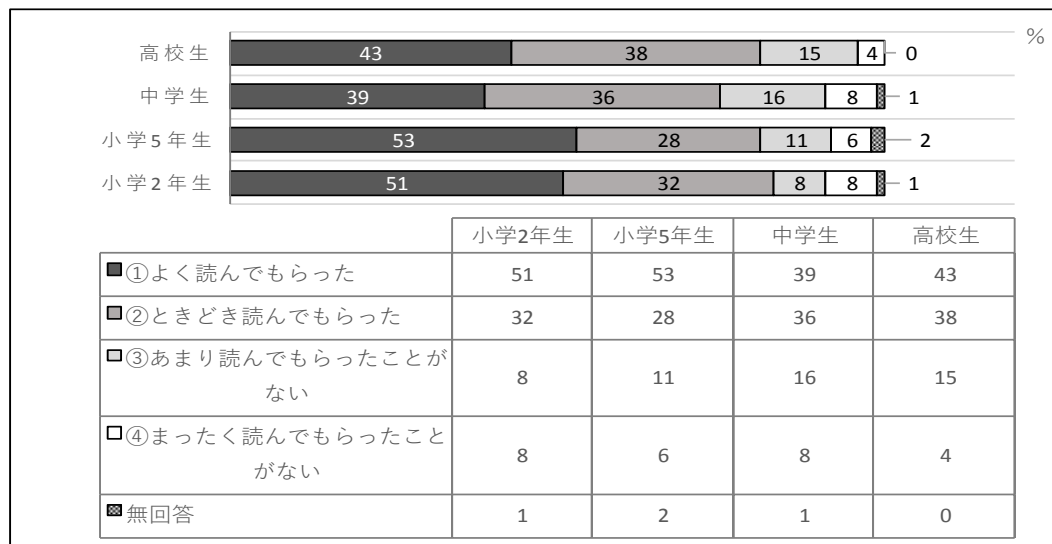
11 あなたのご家族は本を読んでいますか。



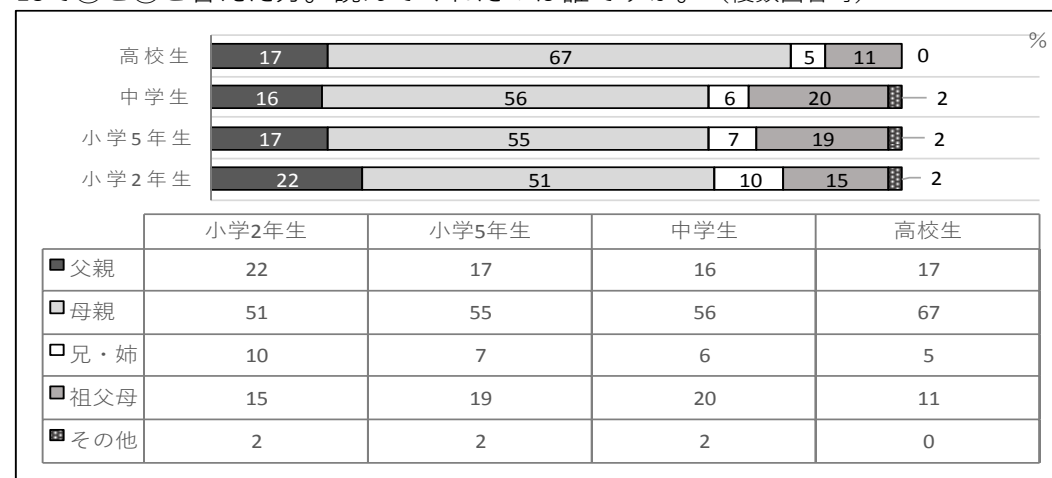
12 ご家族で本について話をすることはありますか。



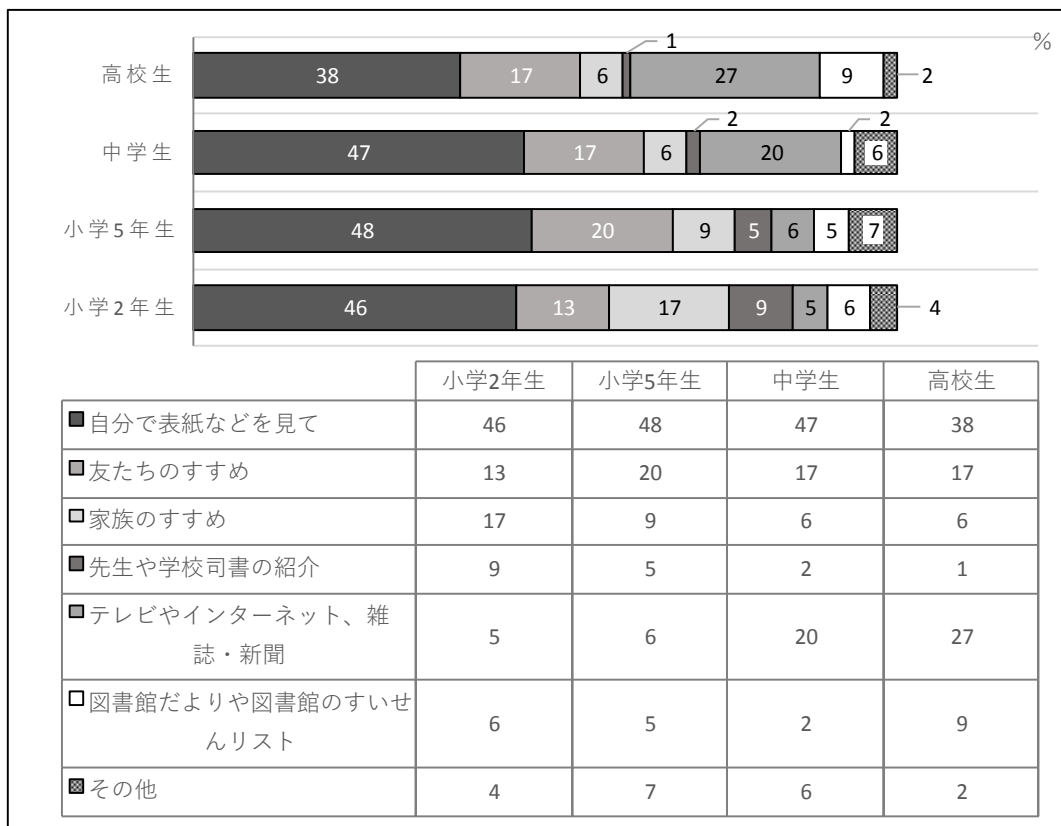
13 あなたは小さいころ、家族から本を読んでもらったことがありますか。



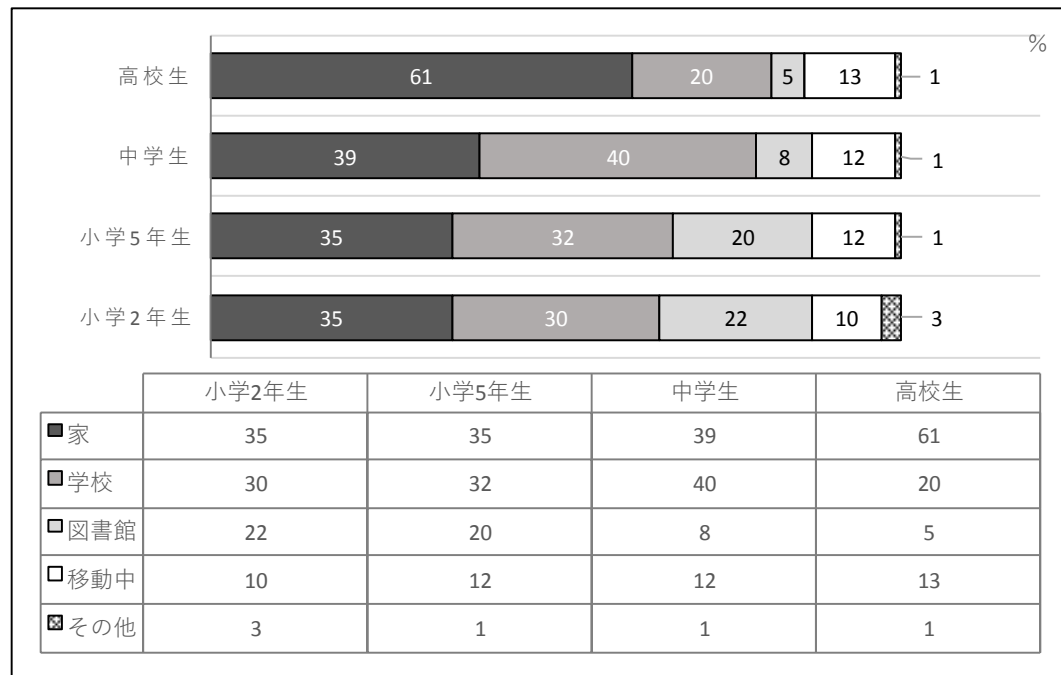
14 13で①と②と答えた方。読んでくれたのは誰ですか。（複数回答可）



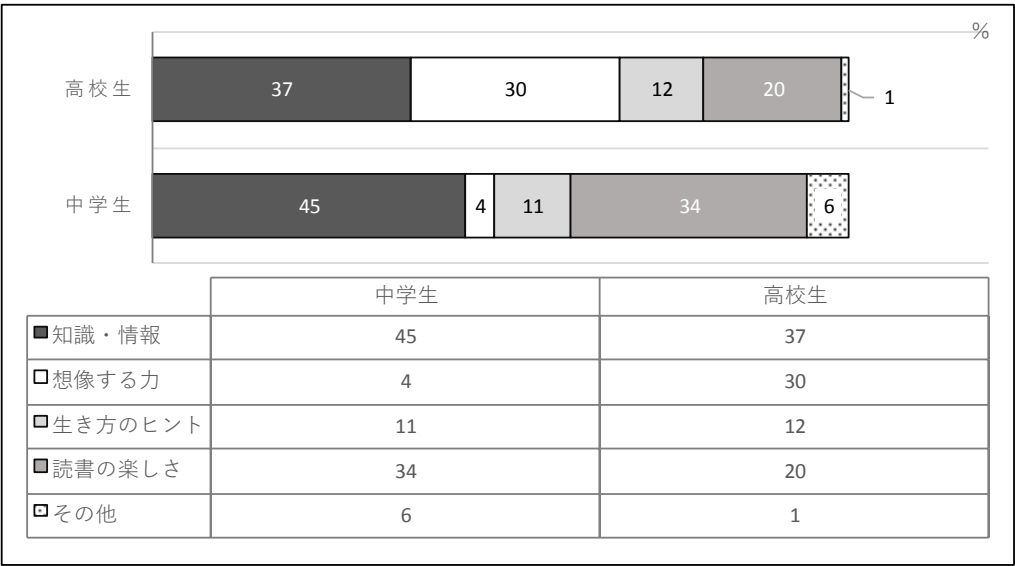
15 読む本はどのようにして選ぶことが多いですか。（複数回答可）



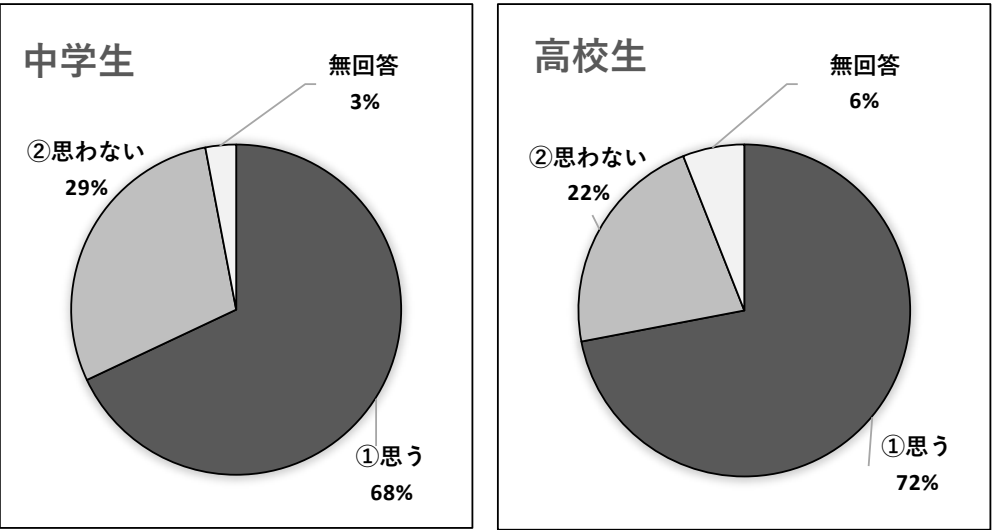
16 読書はどこでしますか。（複数回答可）



17 読書をすることでどんなことが得られると考えていますか。（複数回答可）



18 将来も積極的に読書を続けていきたいと思いますか。



19 ①思う②思わないを選んだ理由は何ですか。

中学生	記入欄参照
高校生	

20 図書館に希望する事（実施してほしい事）を記入してください。

高校生	記入欄参照
-----	-------

生徒記述式意見

1. 本を読むのが好きではない理由は何ですか。

対象学年	その他意見
小学2年生	・すらすら読めない ・国語が苦手 ・忙しい
小学5年生	・読むことがあまり好きではない ・時間がない
中学生	・好きな本が少ない ・眠くなる ・興味が無い ・途中であきらめる ・文字が小さくて読みにくい ・読む暇がない
高校生	・他の趣味ができた ・興味が無い ・集中できない

2. 読書よりしたいことは何ですか。

対象学年	その他意見
中学生	・自分の趣味 ・寝る
高校生	・寝る ・趣味 ・課題や勉強

3. 市などの図書館へは誰と行くことが多いですか。

対象学年	その他意見
小学2年生	・姉 ・兄 ・祖母
小学5年生	・親戚
高校生	・先輩

4. 市の図書館をどのように利用していますか。

対象学年	その他意見
小学5年生	・CDを借りる
中学生	・CDを借りる
高校生	・DVDを観る

5. 市の図書館へ行かない理由は何ですか。

対象学年	その他意見
小学2年生	・家族が忙しいため図書館に連れて行ってくれない ・遊びたいから ・面白い本がどこにあるかわからない ・学校図書館で借りる ・図書館の場所がわからない ・図書館が暑い ・家にある本を読む
小学5年生	・学校図書館で借りる ・家族が連れて行ってくれない ・図書館カードがない ・本を読まない ・休日は家族と出かける ・調べものはパソコンを使う ・面倒 ・習い事がある ・友達と遊んだり宿題等をする ・図書館の場所がわからない
中学生	・学校図書館で借りる ・調べものはパソコンを使う ・面倒 ・本を読まない ・返しに行く時間がない ・遠い
高校生	・面倒 ・用事がない ・静かな場所で勉強できない ・図書館カードがない

6. 小さいころ本を読んできたのは誰ですか。

対象学年	その他意見
小学2年生	・担任の先生 ・おば ・いとこ ・曾祖母
小学5年生	・いとこ ・保育園の先生 ・おじ、おば ・曾祖父 ・学校の先生 ・親戚
中学生	・おば ・いとこ ・保育園の先生 ・小学校の先生 ・友だち
高校生	・保育園の先生

7. 読む本はどのようにして選ぶことが多いですか。

対象学年	その他意見
小学2年生	・作者 ・お気に入りの本 ・字の大きさ ・題名 ・内容
小学5年生	・内容 ・出版社 ・国語の教科書記載の本 ・気になる本 ・作者 ・表紙の裏に書いてある物語のキャッチコピー ・人気のシリーズ
中学生	・内容を少し見て・本屋で面白いと思ったもの・賞を受賞しているもの ・映画やアニメになったもの ・自分の趣味や興味があるもの
高校生	・作者 ・題名

8. 読書はどこでしますか。

対象学年	その他意見
小学2年生	・児童クラブ ・児童館 ・祖父母の家 ・習い事の場所 ・公園 ・店の中
小学5年生	・書店 ・飲食店など ・区民会館 ・公園 ・塾 ・友達の家
中学生	・駅のホーム ・公園

9. 読書をする事でどんなことが得られると考えていますか。

対象学年	その他意見
中学生	・他のものへの興味 ・自分の世界がひろげられる ・活字を読む力 ・判断力 ・国語の点数が上がる ・作者の世界観 ・漢字を覚えらるる

10. 将来も積極的に読書を続けていきたいと思いますか。

対象学年	その他意見
中学生	思う ・難しい言葉や漢字を覚える機会になるから ・読書力がつく ・自分のスキルアップにもつながるから ・将来の夢のため ・将来本によって役立つことがあるかもしれない ・読書は大切だから ・読書をする楽しさがわかってきたから ・小説家になりたいから ・自分の長所である「想像力」を伸ばしたい ・インターネットよりも信憑性がある情報を得られるから ・面白い本がまだあると思うから ・判断力、集中力が身につく ・読書をする心落ち着くから ・国語が得意になりそう ・本は面白いし、自分の子供にも本を好きになってほしい ・学力の高い人は、多くの本を読むと聞いたことがあるから ・分からないことや、知りたいことが分かりやすく載っている ・元気になるし集中できるから
高校生	思う ・読書が好きだから ・読みたい本がたくさんあるから ・様々なことを多面的にみられる能力は将来に役立つと思う ・多くの知識や情報を得られる ・心がリラックスできるから ・国語力を向上させるため ・より多くの物語を読んでみたいから ・受験で役に立ちそう ・身近な生活の中でためになるから ・本の世界に入り込むのが好きだから ・考え方が広がるから ・小説が好きだから ・長文読解力を身に付けられるから ・読書が趣味だから ・読書は自分と異なる考えが読めて面白い ・現代文の先生が「本をたくさん読むことが大切だ」と言ったから ・語彙力を養って教養のある大人になりたいから ・本が好きだから ・将来の役に立つことを学べる ・文章を読むのに慣れるため ・色々な考え方を持つことができる ・今まで知らなかったことを知るきっかけになるから ・仕事につくときに話がうまくなり、印象がよくなるから 思わない ・中学の時から国語が苦手だから ・勉強以外の自由な時間は遊んだりテレビを見たり頭を使わないでいたい

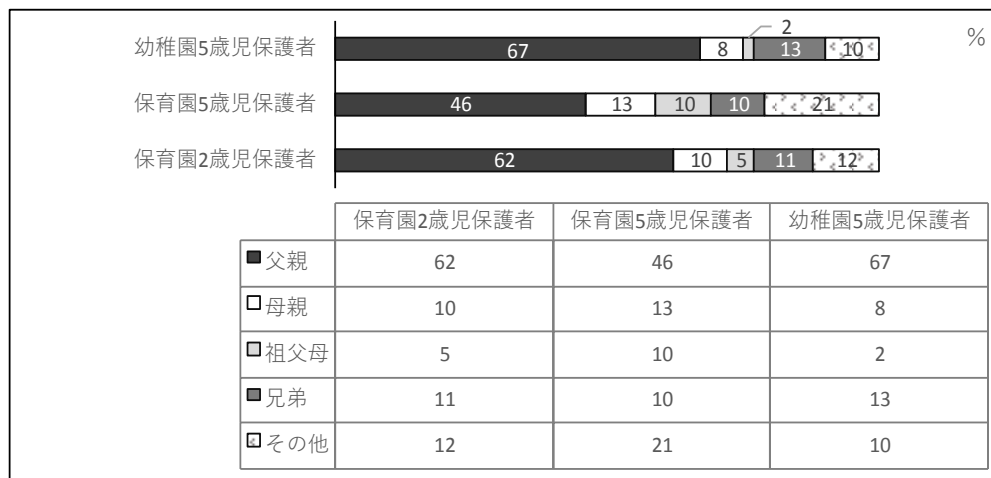
11. 図書館に希望すること（実施してほしいこと）はありますか。

対象学年	その他意見
高校生	・若者向けのあまり内容が難しくない本を多く置いてほしい ・移動図書館 ・おすすめの本の紹介 ・人気のある本を置いてほしい ・開館時間の延長 ・漫画を置く ・様々な系統の本をそろえる

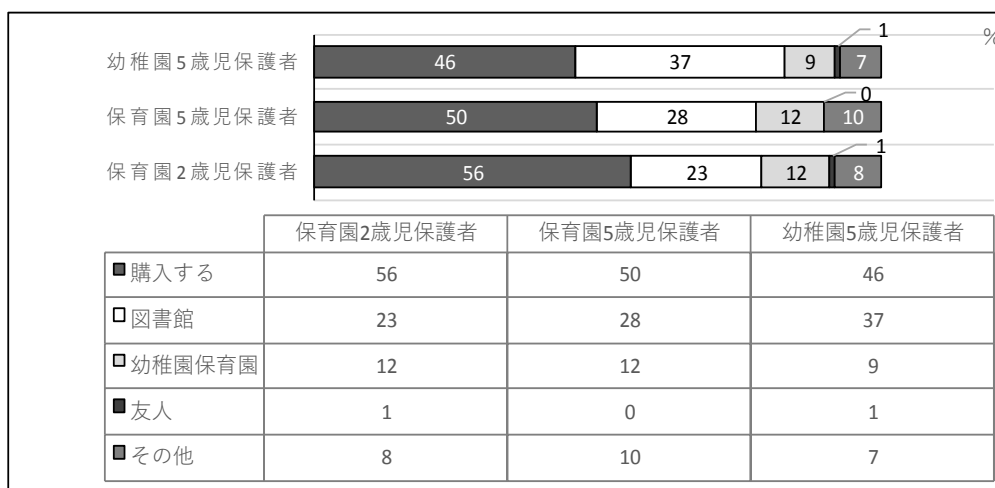
資料3

平成29年保護者アンケート実施結果

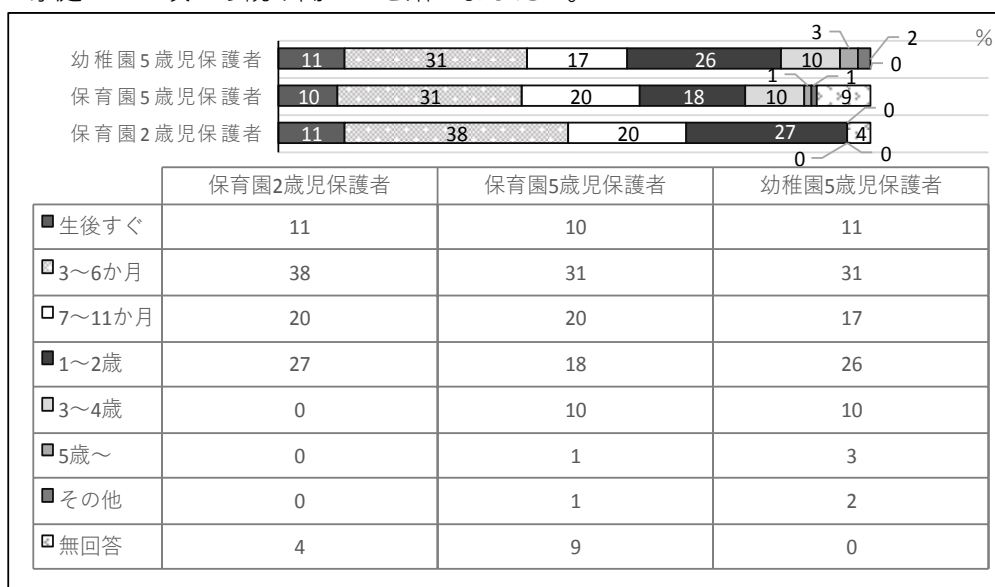
1 ご家庭で2番目に多く読み聞かせを行っている方はどなたですか。



2 読み聞かせに使用する絵本や紙芝居はどのような方法で入手していますか。（複数回答可）



3 ご家庭でいつ頃から読み聞かせを始めましたか。



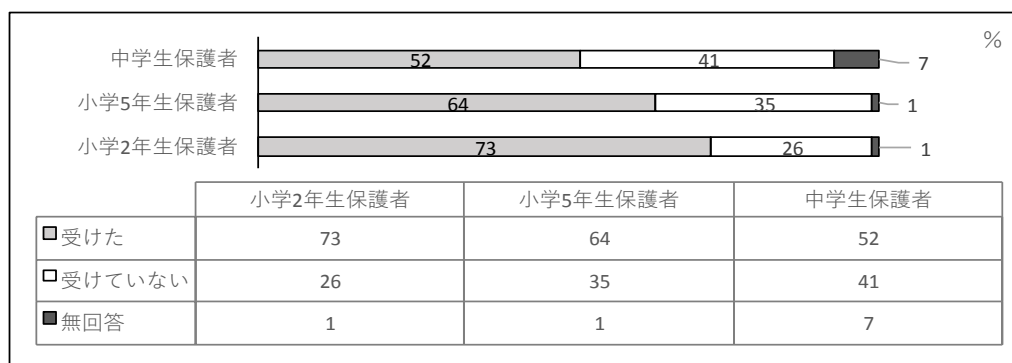
4 読み聞かせをする理由を教えてください。（複数回答可）



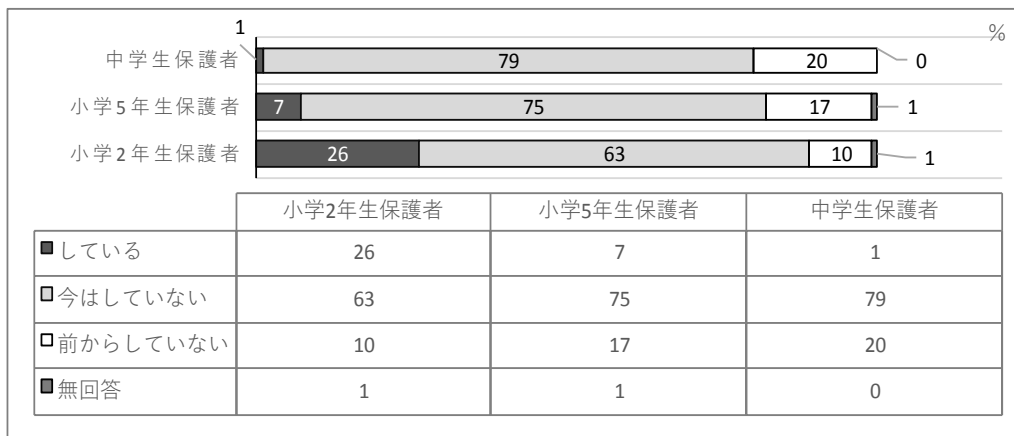
5 読み聞かせをしない理由を教えてください。（複数回答可）



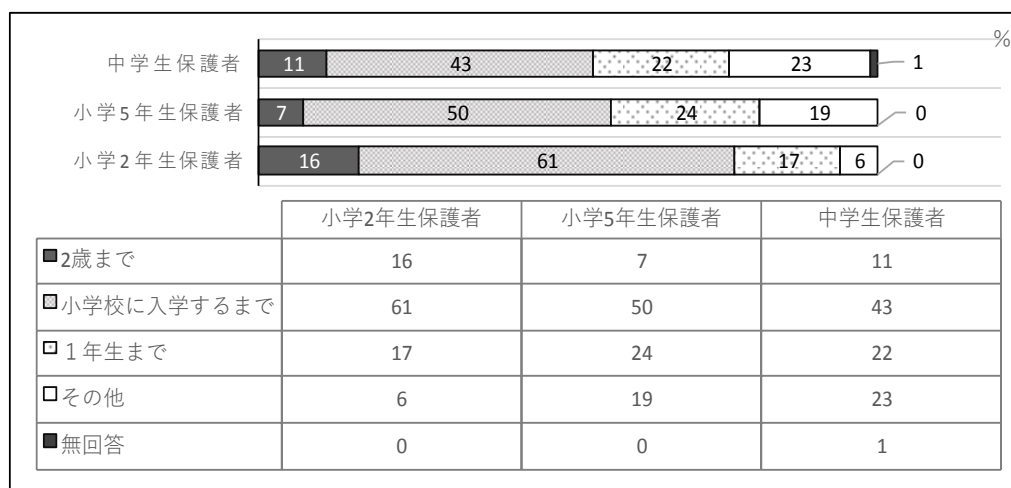
6 お子さんは牛久市または牛久市以外でブックスタートを受けましたか。



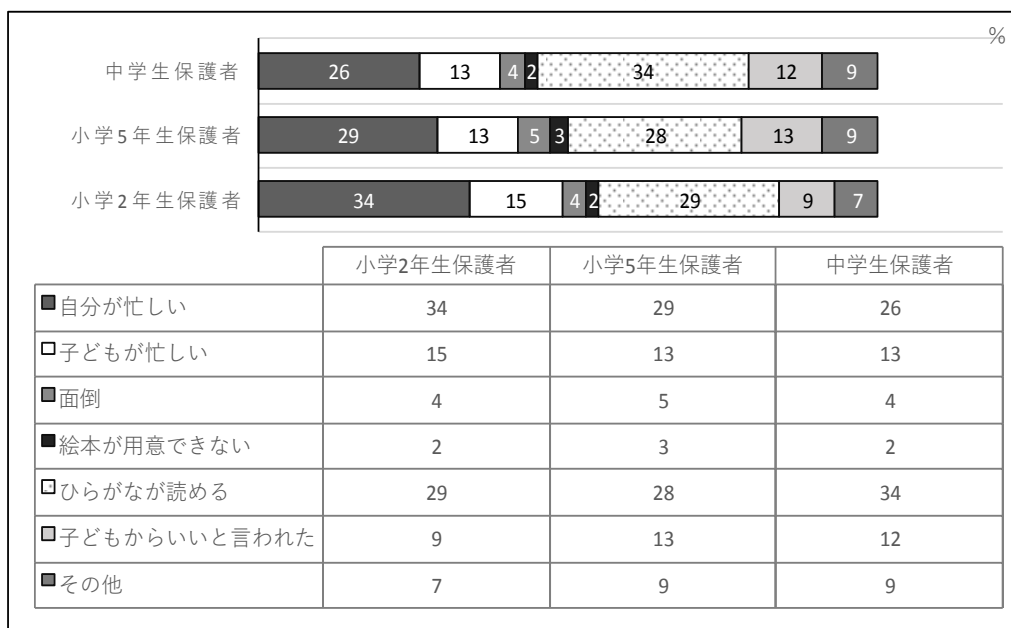
7 ご家庭でお子さんに読み聞かせを行っていますか。



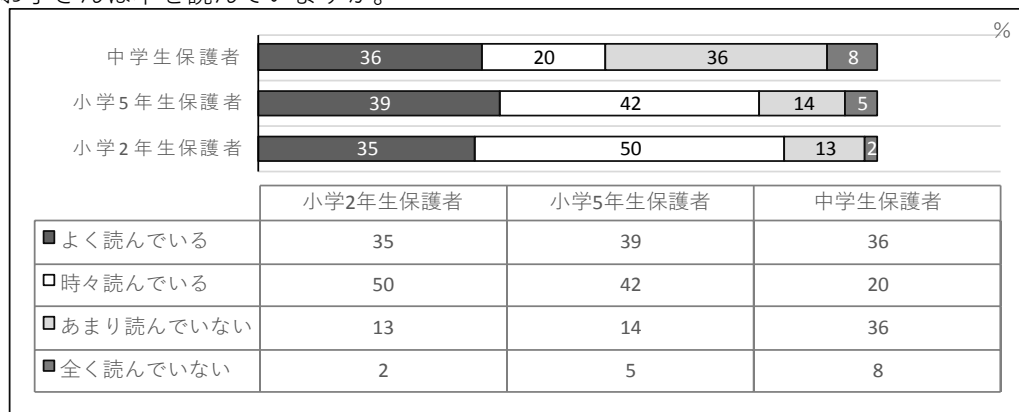
8 「今はしていない」を選んだ方。ご家庭でいつ頃まで読み聞かせをしていましたか。



9 読み聞かせを辞めた理由はなんですか。（複数回答可）



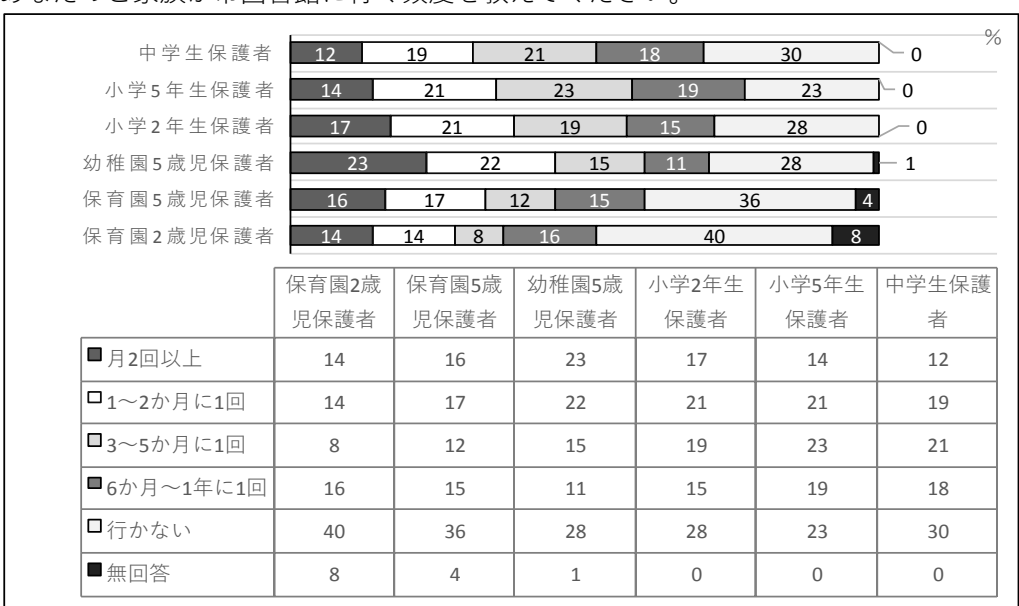
10 お子さんは本を読んでいますか。



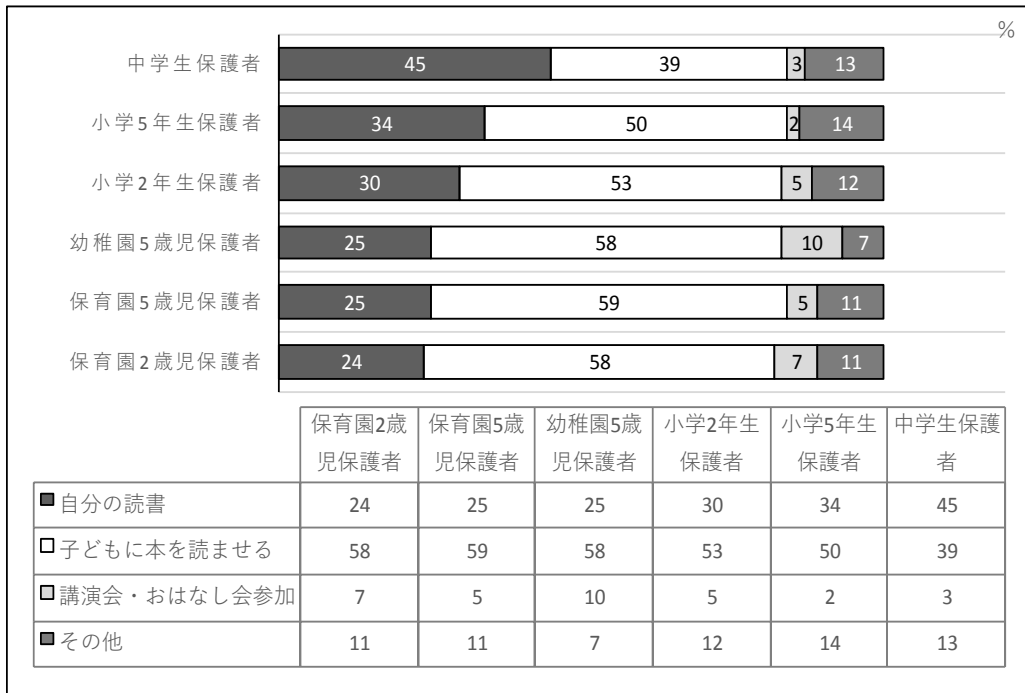
11 ご家族で本について話をすることはありますか。



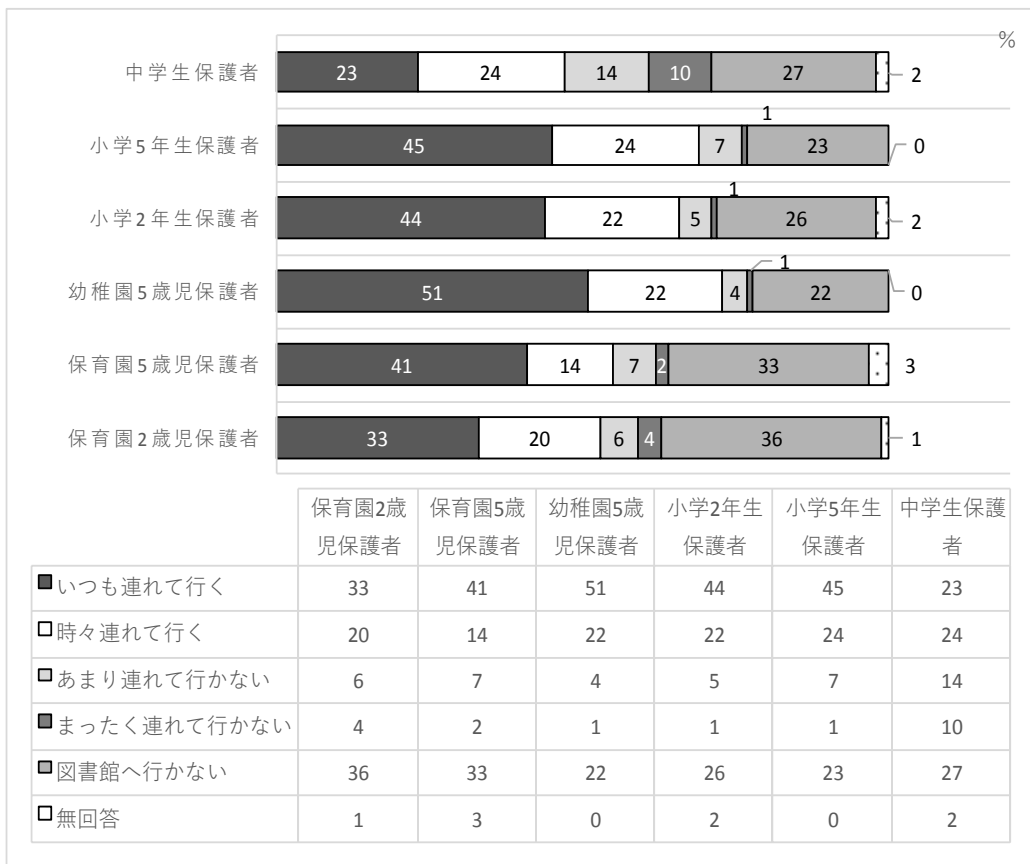
12 あなたのご家族が市図書館に行く頻度を教えてください。



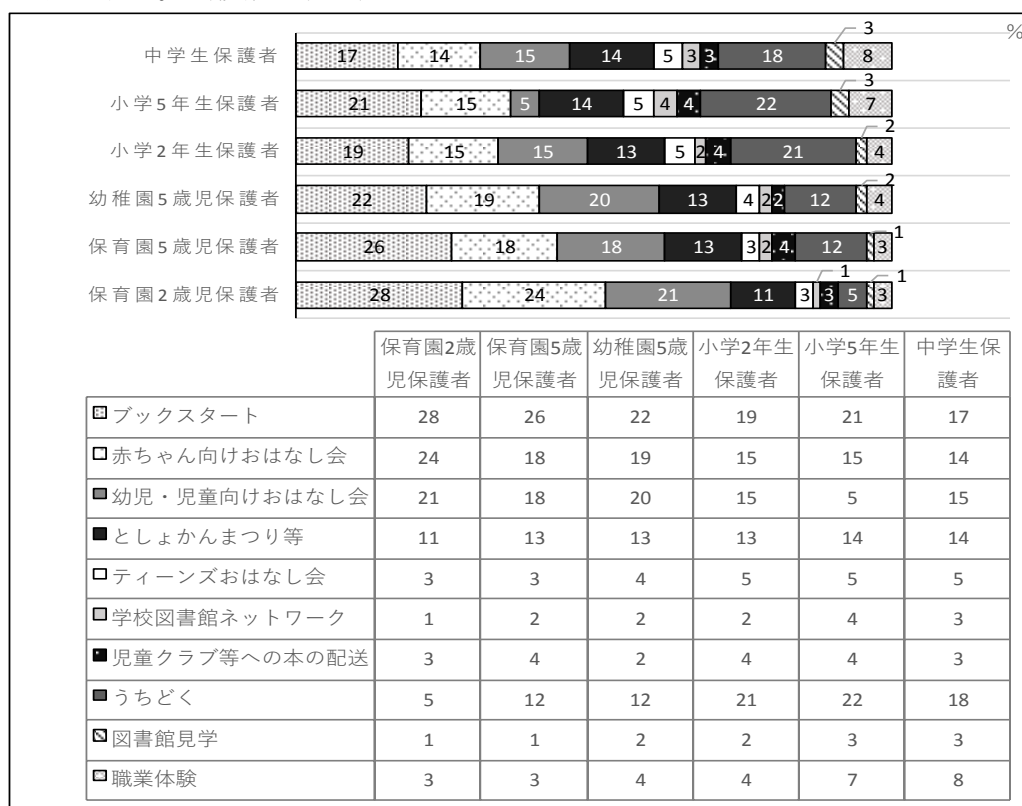
13 市図書館に行く理由は何ですか。（複数回答可）



14 あなたやご家族の方が市図書館に行く時、お子さんを連れていきますか。



- 15 子どもの読書推進のために、市図書館で行っている取り組みの中で知っているものは何ですか。（複数回答可）



- 16 今子どもの読書離れが懸念されていますが、どうすればもっと子どもたちが本をむようになると思いますか。（複数回答可）



保護者記述式意見

1. ご家庭でお子さんに、2 番目に多く読み聞かせをする方はどなたですか。

対象保護者	その他意見
保育園 2 歳児保護者	・曾祖母 ・おば

2. お子さんの読み聞かせ用の絵本や紙芝居は、どのような方法で入手していますか。

対象保護者	その他意見
保育園 2 歳児保護者	・プレゼント ・上の子の本 ・保育園で購入 ・家にある本 ・自分の本 ・親が幼稚園の頃の本 ・小学校で借りた本 ・祖父母の家から借りる ・保育園でもらう
保育園 5 歳児保護者	・プレゼント ・上の子の本 ・姉が学校で借りた本 ・家にある本 ・知人、友人から譲ってもらい ・ipad のライブラリー ・保育園から購入 ・自分の子どもの頃の絵本
幼稚園 5 歳児保護者	・プレゼント

3. ご家庭でいつ頃から読み聞かせを始めましたか。

対象保護者	その他意見
保育園 5 歳児保護者	・最近

4. 読み聞かせをする理由を教えてください。

対象保護者	その他意見
保育園 2 歳児保護者	・自分が読み聞かせをしたいと思ったから ・知識をつけてほしい ・子どもが本が好きで読んでと持ってくるから ・私が親にしてもらっていたため ・一所懸命聞いてくれ喜んでる姿を見たいから ・自分の心も落ち着くので ・寝る前に本を読むのが習慣になっているため
保育園 5 歳児保護者	・子どもが読んでと言うから ・いろいろな事に興味を持ってほしい ・国語の基礎力を作りたい ・習慣になっているから ・楽しいから ・寝かしつけのため ・自分が読みたいから ・習慣になっているから ・他人の傷みがわかるよう想像力を養ってほしい ・保育園の方針
幼稚園 5 歳児保護者	・読んでと言われるので ・母親が本が好きなので

5. 読み聞かせをしていない理由を教えてください。

対象保護者	その他意見
保育園 2 歳児保護者	・本をすぐめくってしまい、片づけてしまう ・きょうだいを読んでいる ・一歳未満児もいるため、あわただしい ・他の事への興味の方が強い ・すでに子どもが自分で黙読をできている ・絵本に気が向いていない ・時間がない ・保育園でも読み聞かせをしている ・習慣がない
保育園 5 歳児保護者	・自分で読みたがり、親に読ませない ・他の遊びを優先させている ・集中できない ・仕事から帰ってきた時にはすでに寝ている ・習い事で時間がない ・読む時間がない ・保育園で読んでいる ・習慣がない ・子どもが自分で黙読できている ・園で本の貸出がない
幼稚園 5 歳児保護者	・遊びに夢中になりタイミングが合わない

6. ご家庭でいつ頃まで読み聞かせをしていましたか。

対象保護者	その他意見
小学 2 年生保護者	・3 歳まで ・4 歳まで ・5、6 歳まで ・幼稚園まで ・1 年生まで ・下の子が生まれると少しずつ減っていった

対象保護者	その他意見
小学5年生保護者	・3歳 ・4歳 ・年中 ・1年生 ・2年生 ・低学年 ・3年生 ・4年生 ・読書カードに「読んでもらった」の欄がある間 ・子どもが読みたがる本が、音読が難しい厚い本になった中学年の頃まで
中学生保護者	・3、4歳まで ・小学2、3年生まで ・低学年まで ・小学6年生まで ・小学校高学年まで ・中学校に入学するまで

7. 読み聞かせを辞めた理由は何ですか。

対象保護者	その他意見
小学2年生保護者	・読んでほしいと言われなくなった ・ゲームをするようになった ・読んでも聞いていない ・きょうだいの習い事の送迎と時間がかぶる ・なんとなくやめてしまった ・私の目が悪くなり、本を見なくなった ・毎日宿題の音読がでるから ・子どもが本に興味を持たなくなった ・子どもが一人で読むようにさせたかった ・すぐ寝てしまう ・下の子に読み聞かせをするため ・興味のある本が図鑑になった
小学5年生保護者	・宿題等に時間がかかり寝る時間が遅くなった ・自分で読む事が大切だと思うから ・読んでいても聞いていない ・下の子と寝る時間が変わってしまった ・なかなか時間を作れない ・読む本の種類が小さい頃から変わった ・学校で音読するようになったから ・学校で音読するようになったから ・友達と遊ぶようになった ・長女が妹に読み聞かせをしている ・読んでいて親が先に眠ってしまう ・以前ほど読み聞かせを喜ばなくなったため、自然に習慣がなくなった ・子どもが大きくなり、逆に聞いてと言われるようになった ・読書以外のことに関心が強くなった
中学生保護者	・「読んで」と言われなくなった ・年齢に応じて必要ないと判断した ・自然に読まなくなった ・本より映像を見るようになった ・音読の課題が始まったから

8. 市の図書館へ行く理由は何ですか。

対象保護者	その他意見
保育園2歳児保護者	・仕事の資料、趣味の本を借りる。勉強のため ・上の子が本を借りる ・予約可能で、自宅近くで借りに行きやすいから ・雨の日に子連れで行ける場所があまりない
保育園5歳児保護者	・勉強 ・本を借りるため ・たくさんの本に興味をもたせるため ・子どもが借りたいと言うから
小学2年生保護者	・DVD鑑賞 ・調べものをする ・勉強する ・CDを借りる ・休日のお出かけの一つ ・自分の本を借りる ・宿題をする ・子どもの自主学習 ・子どもが色々な本を読みたいと言うから ・経済的に本をたくさん買えない ・祖父母に連れていってもらう ・読み聞かせボランティア用の選書 ・子どもが自分の本を探すため ・子どもが学校図書室にない本を借りる ・子どもの自主学習の参考
小学5年生保護者	・読み聞かせるための本を選ぶ ・子どもが興味のあるものを知るため ・子どもが本が好きだから ・映画を観る ・本の環境が好き ・自分と子どもの本を借りる
中学生保護者	・子どもが図書館へ行きたがる ・子どもの本を選ぶ ・下の子に本を読ませるので ・視聴覚資料を観に行く ・読み聞かせボランティアをしているため ・自習や仕事の資料探し

9. どうすればもっと子どもたちが本を読むようになると思いますか。

対象保護者	その他意見
小学2年生保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・多少強制でも本に触れあう回数を増やし、興味関心を引き出す ・読む本を強制しない（本の種類を問わず読むことを楽しむ） ・ブックイベントを開催する ・マンガを読ませて、本を好きにさせる ・ひたち野地区にも図書館があれば気軽に行くようになる ・読書シールやごほうび等を作る ・子どもの興味分野の本を与える ・図書室で自学や勉強できる時間を持てるようにする ・各クラスの朝の会等で、先生や子どもがおすすめの本を発表する ・30分早くベッドに行き、眠くなるまで本を読む ・電子書籍を好きなだけ読めるようにする ・自分で物語をつくらせる ・大人が薦めた本を読ませる ・新しい音楽や朗読CDを備える ・本の中に実際に出てくる場所に行ってみる ・親の話は聞かないので先生等が最後まで読むように指導して欲しい ・子どもが欲しいと言った本はすぐに与える ・ジャンル別や年齢別等の人気ランキング等を図書館のHPで公開する
小学5年生保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある本はすぐ用意する ・子どもと一緒に本を読む ・小さいうちから家庭で本に親しむ ・友人と読書する時間を作る ・親は本の内容に口出しせず、図書館や書店で子どもに好きな本を選ばせる ・子どもの興味のある事、物を知る事 ・本の値段を下げてほしい ・図書館に子どもの知らない世界のまんが本をもっと増やす ・テレビ番組で面白い本の紹介があるとよい ・学校で先生が絵本の読み聞かせや絵本の紹介をする ・親が子どもの頃読んだ本を薦める ・学校で読書の時間を増やす ・朝の読書タイムは継続してほしい ・子ども達同士で読み聞かせをする ・ポイントラリーやスタンプラリー等のイベントをする ・ゆとりの時間を過ごす ・ネットで手軽に読めること ・図書館分室を増やし自宅近くに通える機会を増やす ・必ず読み聞かせを続けるという親の強い意志と習慣化が必要 ・朝の会などで面白い本などを紹介する ・家に本を置く(買う、借りる) ・最初はマンガでもよいのできっかけを作る ・「どんな気分のときに読む本」などの検索ができるとよい ・画像で本の表紙があるとわかりやすい ・学校で読書の時間を増やす ・読まなくなった本を持ち寄り、教室や廊下等子どもの手が届きやすい場所に置く ・小さい頃から、夜寝る前に読み聞かせをする ・図書募金をして小学生向けの小説を増やす
中学生保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものみで利用できるようかっぱ号の本数を増やす工夫をする ・"何歳までに読んでおきたい"等、本の紹介のポップを工夫する ・無理やりでも本を与えてきっかけを作る ・スマホを活用する ・赤ちゃんの時に読み聞かせをする ・大型書店を誘致する ・18歳未満対象の本の販売価格を安くする ・生活習慣を見直し、学校だけでなく家庭でも本を読む時間を作る ・興味がある物を見つけた時に見ることが大切だと思う ・子どもの自由な時間を増やしてあげたい

資料 4

関係機関施設等一覧

平成29年9月1日現在

図書館

施設名	住所	電話番号
中央図書館	柏田町3304-1	871-1400
奥野生涯学習センター	島田町2700-1	875-1133
三日月橋生涯学習センター	庄兵衛新田町210-3	874-1340
牛久市役所エスカード出張所（図書カウンター）	牛久町280	872-8234
リフレ図書カウンター	ひたち野東1-33-6	878-5211
二小学区地区社会福祉協議会	田宮町366-1	801-1294

市立保育園

施設名	住所	電話番号
栄町保育園	神谷3-8-1	873-0863
下根保育園	下根町552-1	830-7751
つつじが丘保育園	田宮町175	873-0140
向原保育園	小坂町3388-4	873-1440

私立保育園

施設名	住所	電話番号
牛久保育園	東端穴町869-1	843-6966
牛久さくら保育園	下根町1371-2	869-9557
牛久ひかり保育園	下根町990-14	828-8105
牛久ふれあい保育園	牛久町1606	873-9560
牛久みらい保育園	東端穴町1260-11	874-3993
牛久めぐみ保育園	下根町774-1	893-2616
奥野さくらふれあい保育園	久野町725	875-0056
上町ふれあい保育園	牛久町2619	872-0358
つつじが丘ふたばランド保育園	田宮町199-1	871-6928
つばめ保育園	遠山町764-1	871-5740
ひたち野うしく保育園つくしんぼ	東端穴町1286-1	886-9773
ふたばランド保育園	中央5-5-2	873-5528

私立認定こども園

施設名	住所	電話番号
うしく文化認定こども園	遠山町643-2	873-8253

市立幼稚園

施設名	住所	電話番号
第一幼稚園	中根町235	872-1325
第二幼稚園	牛久町2566-1	873-4694

私立幼稚園

施設名	住所	電話番号
牛久幼稚園	上柏田 3-8-3	874-2246
こばと幼稚園	猪子町 828-33	873-0147
ひたち野牛久幼稚園	東端穴町 827-2	843-1120
フレンド幼稚園	柏田町 3489-2	873-7435

市立小学校

施設名	住所	電話番号
牛久小学校	牛久町 2619	872-0004
牛久第二小学校	田宮町 530	873-1438
岡田小学校	岡見町 2050-2	872-0304
奥野小学校	久野町 725	875-0024
神谷小学校	神谷 4-14	873-6152
中根小学校	中根町 235	873-0226
ひたち野うしく小学校	ひたち野西 2-11	873-1710
向台小学校	牛久町 1606	873-7471

市立中学校

施設名	住所	電話番号
牛久第一中学校	柏田町 1017	872-0310
牛久第二中学校	久野町 670	875-0055
牛久第三中学校	城中町 1830-1	873-4699
牛久南中学校	さくら台 1-73-1	873-5886
下根中学校	下根町 829	873-6135

私立中学校

施設名	住所	電話番号
東洋大学附属牛久中学校	柏田町 1360-2	872-0350

県立高等学校

施設名	住所	電話番号
牛久高等学校	岡見町 2081-1	873-6220
牛久栄進高等学校	東端穴町 876	843-3110

私立高等学校

施設名	住所	電話番号
東洋大学附属牛久高等学校	柏田町 1360-2	872-0350

資料5

子どもの読書活動の推進に関する法律

平成十三年十二月十二日号外法律第百五十四号

〔文部科学大臣署名〕

子どもの読書活動の推進に関する法律をここに公布する。

子どもの読書活動の推進に関する法律

（目的）

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

資料 6

策定スケジュール

日程	内容
平成 29 年 6/12	第 1 回ワーキング会議 策定スケジュールの確認
7/11～7/18	アンケート回答期間
8/3	第 1 回図書館協議会 「牛久市子ども読書活動推進計画第 2 次」策定説明
8/18	第 2 回ワーキング会議 アンケート結果検証、原稿依頼
9/26～10/2	ワーキング委員素案の意見照会
10/3	第 3 回ワーキング会議 素案について審議
10/6～10/18	ワーキング委員素案閲覧
10/19～10/30	全庁意見照会
11/9～11/22	パブリックコメント実施
12/11	パブリックコメント結果の公表
12/25	第 2 回図書館協議会 「牛久市子ども読書活動推進計画第 2 次（案）」諮問
平成 30 年 1/12	第 3 回図書館協議会 「牛久市子ども読書活動推進計画第 2 次（案）」答申
1/22	教育委員会定例会（報告）
1/29	庁議付議事項提出期限
2/13	庁議、市長決裁
3 月	議会配布、記者発表

資料 7

○牛久市図書館協議会委員名簿

選出区分	役 職 名	氏 名
社 会 教 育 の 関 係 者	牛久市議会教育民生常任委員会 委 員 長	須藤 京子
	牛久市文化協会公演事業委員会 委 員 長	出来尾 穂子
	牛久市読書団体連合会会長	佐々江 健治
	読み聞かせボランティア代表	池田 史恵
	学校長会（牛久小学校校長）	萩谷 智徳
	学 校 長 会 （ひたち野うしく小学校校長）	助川 勉
家 庭 教 育 の 関 係 者	牛久市PTA連絡協議会相談役（牛久第一中学校）	小林 明人
学 識 経 験 者	元東洋大学附属牛久高等学校 司 書	関根 順子
	元ひたち野うしく小学校 校 長	中島 和枝

○牛久市子ども読書活動推進計画（第2次）策定ワーキング委員名簿

所 属	職 名	氏 名
神 谷 小 学 校	司 書 教 諭	高畠 恵津子
牛 久 第 一 中 学 校		齋藤 剛
牛 久 第 二 小 学 校	学 校 司 書	小久保 真澄
下 根 中 学 校		鍋田 奈穂
お は な し よ ん で	読 み 聞 か せ 団 体 代 表	池田 史恵
指 導 課	指 導 主 事	塚本 桂子
中 央 図 書 館	事 務 職 員	岡田 晋
		宮田 夏海
	司 書	小松澤 綾子
		斎藤 貴代子
		竹吉 優輔
		田村 千智
		木津 美紀



牛久市子ども読書活動推進計画（第２次）

発 行 平成３０年（２０１８年） ３月
編集・発行 牛久市教育委員会
主 管 課 牛久市教育委員会 中央図書館
〒３００－１２１１
茨城県牛久市柏田町３３０４－１
電話 ０２９－８７１－１４００
FAX ０２９－８７３－５３７４
Email library@city.ushiku.ibaraki.jp